

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第 19 号

2009 年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



# 高知県埋蔵文化財センター年報

第 19 号

2009 年度

財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



## 序

平成21年度は新たに1年間の指定管理者として、多くの県民の方に埋蔵文化財に親しんでいただけるよう取り組んで参りました。その結果、2,866人の入館者数があり、対前年度増加率は約12%でした。指定管理者となってから毎年10%以上の増加率を保っています。

まず、広報普及事業では、より見やすい年間行事カレンダーの作成やホームページの修正等を行い利用者の便を図ると共に「掘りゆうぜよ高知 2009 遺跡の館 夏休み企画」と銘打った7～9月の事業を紹介したチラシを平成21年度も県内の小中学生全員に配布し、親子考古学教室には多くの応募をいただきました。18回の追加開催を含め合計22回開催し、延べ870人の親子に参加いただきました。古代ものづくり体験教室では「ガラス玉づくり」が30～40歳代の女性に人気があり、3回追加開催し合計8回開催しました。平成10年度の南国市内を対象とした試行事業から数え12年目に当たる出前考古学教室は授業を受けた生徒が延べ14,562人、参加生徒数が22,698人に達しました。申し込み数も新型インフルエンザの流行にも関わらず75件と多く、埋蔵文化財センターの欠くことのできない事業になっています。

発掘調査事業は、国の事業を中心に11件の事業を受託し、8遺跡の発掘調査と9遺跡の整理作業を実施しました。全事業費の約45.5%を占める国の道路関係事業の中の約43.1%(全体の約19.6%)に当たる高知南国道路が一時凍結路線にあり、大きな問題となりました。一方、全国的にも類例の少ない江戸時代前期の護岸遺構が検出された上ノ村遺跡など大きく報道され注目された発掘調査もあり、埋蔵文化財にとって明るい話題を提供しました。

今後も埋蔵文化財センターは高知県の歴史解明に繋がる発掘調査事業と共にその成果を広く県民の方に伝える広報普及事業が一体となるように努めてまいります。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に心の安らぎの場となって行きたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年7月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 小笠原 孝夫

## 例言

1. 本書は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成21(2009)年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの2の(4) 出前考古学教室」と「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」は担当が中心となって執筆を行い、廣田が取りまとめ編集した。それ以外は廣田が執筆、編集した。
3. 「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

## 本文目次

I 財団法人高知県文化財団.....	1	3. 天神溝田遺跡(09-4ITM).....	33
1. 財団法人高知県文化財団の概要.....	1	4. 土島田遺跡(09-5NS).....	34
2. 財団法人高知県文化財団の組織.....	1	5. 上ノ村遺跡(09-8TK).....	36
II 埋蔵文化財センター.....	3	6. 西弘小路遺跡(09-7NK).....	38
1. 埋蔵文化財センターの概要.....	3	7. 原遺跡(09-9KH).....	39
2. 埋蔵文化財センターの組織.....	3	8. 徳王子前島遺跡(09-10KM).....	40
3. 埋蔵文化財センターの施設.....	5	V 条例・規則等.....	41
4. 利用方法等について.....	6	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例.....	41
III 年間事業の概要.....	7	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則.....	45
1. 発掘調査事業.....	7	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定.....	46
2. 指定管理事業.....	12		
3. その他の事業.....	29		
IV 各遺跡の発掘調査概要.....	31		
1. 東野土居遺跡(09-1KH).....	31		
2. 関遺跡(09-2NS).....	32		

## 表目次

表 1 高知県文化財団役員一覧.....	2	表12 平成21年度物品(県有物)貸出し一覧.....	19
表 2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧.....	4	表13 平成21年度施設等見学者一覧.....	20
表 3 発掘調査推移表.....	7	表14 平成10～21年度出前考古学教室実績一覧.....	21
表 4 平成21年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡) 一覧表.....	8	表15 平成21年度出前考古学教室前期実績一覧...23	
表 5 平成21年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧 表.....	10	表16 平成21年度出前考古学教室後期実績一覧...25	
表 6 入館者推移表と平成21年度の入館者.....	13	表17 平成21年度職員専門研修.....	27
表 7 平成21年度考古学講座.....	15	表18 平成21年度独立行政法人国立文化財機構奈良 文化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程.....	27
表 8 公開講座参加者数.....	15	表19 平成21年度情報交換会.....	28
表 9 平成21年度発掘調査報告会.....	16	表20 平成21年度現地説明会一覧.....	28
表10 平成21年度公開講座1.....	17	表21 平成21年度講師等派遣依頼一覧.....	29
表11 平成21年度公開講座2.....	18	表22 平成21年度会議等参加者一覧.....	30

## 図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 6 平成21年度受託事業発掘調査位置図(番号は受 託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一 致).....	9
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 7 平成21年度受託事業整理作業位置図(番号は受 託発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致)....	11
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800).....	5		
図 4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800).....	6		
図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7		

## 写真目次

写真 1	年間行事カレンダー.....	12	写真 22	休・廃校活性化プロジェクト in 布 2009 .....	29
写真 2	企画展2展示報告会.....	13	写真 23	溝完掘状態.....	31
写真 3	続・発掘へんろポスター.....	13	写真 24	遺構完掘状態.....	31
写真 4	企画展2ポスター.....	14	写真 25	弥生土器出土状態.....	32
写真 5	特別展ポスター.....	14	写真 26	溝完掘状態.....	32
写真 6	特別記念講演会.....	14	写真 27	備前焼の壺と和鏡出土状態.....	33
写真 7	発掘調査報告会.....	15	写真 28	遺構完掘状態.....	33
写真 8	掘りゆうぜよ高知2009.....	16	写真 29	竪穴住居跡群完掘状態.....	34
写真 9	親子考古学教室.....	16	写真 30	大型竪穴住居跡.....	35
写真 10	古代ものづくり体験教室.....	17	写真 31	古墳時代遺物出土状態.....	35
写真 11	発掘現場見学会.....	17	写真 32	近世護岸遺構完掘状態.....	36
写真 12	ホームページ.....	18	写真 33	近代堤防遺構一次石堤完掘状態.....	37
写真 13	施設見学.....	19	写真 34	石列完掘状態.....	37
写真 14	出前考古学教室.....	22	写真 35	木簡出土状態.....	38
写真 15	遺物展示解説.....	24	写真 36	遺構完掘状態.....	38
写真 16	火起こし.....	24	写真 37	須恵器出土状態.....	39
写真 17	勾玉づくり.....	25	写真 38	遺構完掘状態.....	39
写真 18	遺物展示.....	26	写真 39	軒丸瓦出土状態.....	40
写真 19	現地説明会(上ノ村遺跡).....	28	写真 40	自然流路完掘状態.....	40
写真 20	職員専門研修1.....	28			
写真 21	職員専門研修2.....	28			

# I 財団法人高知県文化財団

## 1. 財団法人高知県文化財団の概要

### (1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大など社会経済情勢の変化を背景に、芸術文化活動に直接参加し、或いは歴史的・文化的遺産に自ら親しむことを通じて、生活の中に潤いとやすらぎを求めるといった県民の文化的ニーズがかつてなく高まってきている。

このような時代の趨勢の中で、これからの文化行政は、より県民の期待に応えるものでなければならないが、特に、その推進に当たっては、単に行政のみが主導していくのではなく、行政と民間がそれぞれの叡知、力を出し合い、一致協力していくことが何よりも必要である。

高知県文化財団は、こういった使命と目的のもとに、県民文化の振興に資する芸術文化関連諸事業を、県、市町村、民間の力を幅広く結集して、総合的・体系的に運営実施すると共に、県民の文化活動の拠点となる各種の芸術文化施設についてもその特性を生かし、公共性を確保しつつ、県民サービスの向上につながる柔軟で弾力的な管理運営を行うなど、今後の本県の芸術文化活動の推進母体としての役割を担おうとするものである。

### (2) 事業内容

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化事業
- ② 教育、学術及び文化の国際交流事業
- ③ 歴史民俗資料館、美術館等芸術文化施設の管理運営事業
- ④ 埋蔵文化財の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ⑤ その他文化振興に関する事業

### (3) 設立年月日

平成2年3月28日

### (4) 事務局所在地

高知県高知市高須353-2  
高知県立美術館内

## 2. 財団法人高知県文化財団の組織

### (1) 財団組織

#### ① 理事会役員

理事長1名 副理事長1名 理事8名 監事2名

#### ② 事務局

総務部長 - 総務課長 - 事務職員

2. 財団法人高知県文化財団の組織

③ 財団組織図

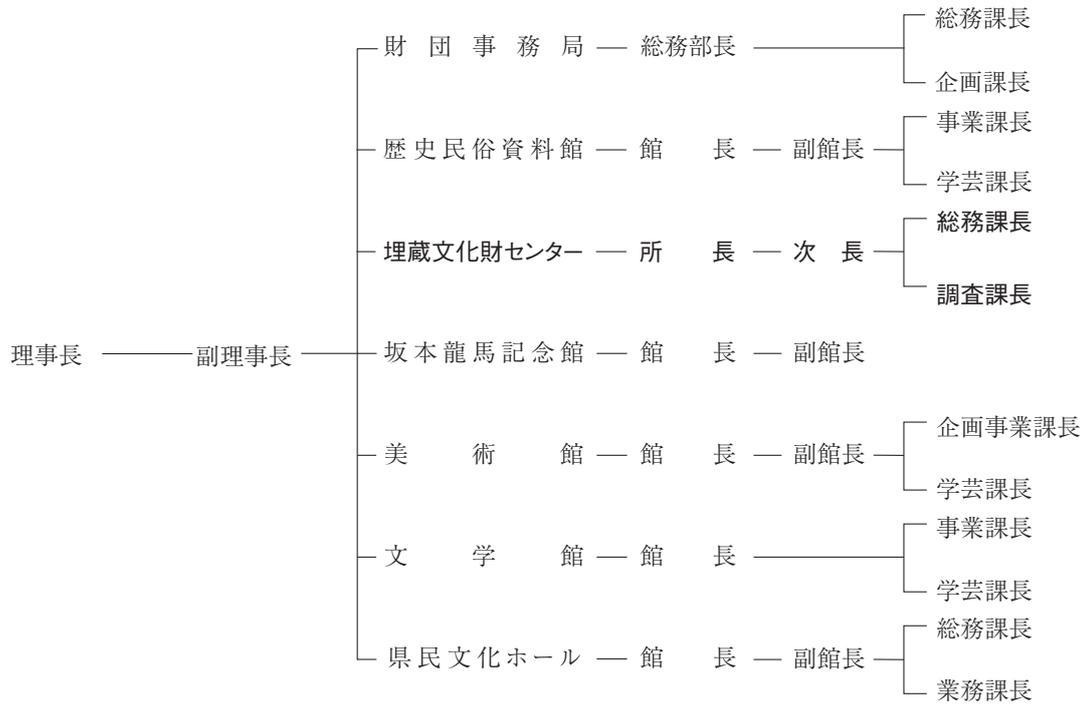


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団役員一覧

役職名	氏名	備考
理事長	島田 京子	
副理事長	青木 章泰	(株)四国銀行代表取締役頭取
理事	大崎 富夫	高知県文化環境部長
〃	岡崎 誠也	高知県市長会会長
〃	吉岡 珍正	高知県町村会会長
〃	藤戸 謙吾	(株)高知新聞社代表取締役社長
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭
〃	伊野部 重晃	(株)高知銀行代表取締役頭取
〃	山本 眞壽	染織家
〃	藤田 直義	高知県立美術館館長
監事	高橋 重一	(株)四国銀行お客様サポート部長
〃	廣光 良昭	税理士

平成22年3月31日現在

## Ⅱ 埋蔵文化財センター

### 1. 埋蔵文化財センターの概要

#### (1) 設立趣旨

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

#### (2) 事業内容

##### ① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

##### ② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

##### ③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

##### ④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

##### ⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

#### (3) 設立年月日

平成3年4月1日

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原南泉1437-1

### 2. 埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 埋蔵文化財センターの組織図

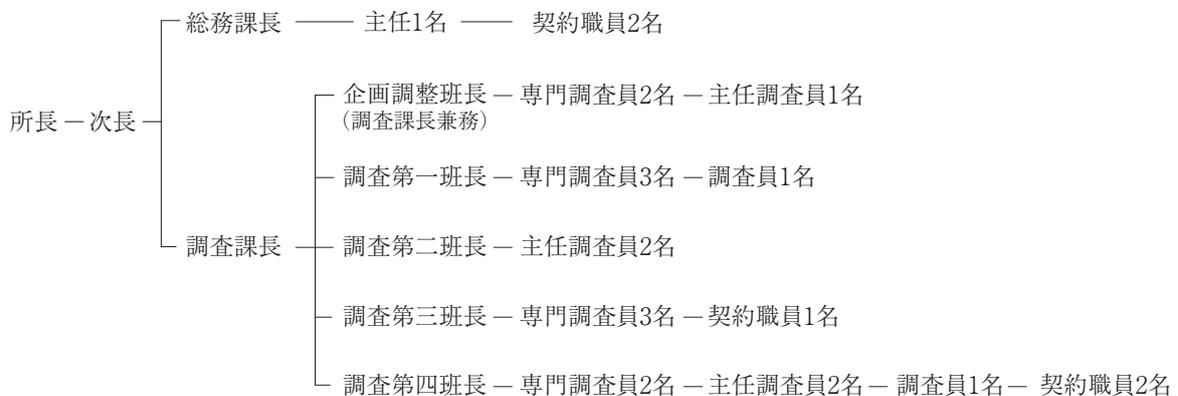


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表2 高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		小笠原 孝夫	県教育委員会文化財課副参事	
次 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	里見 敦典	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	弘末 節子	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	榊 琴美	(財)高知県文化財団	
	〃	濱田 晶	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長(兼)	廣田 佳久	〃
		専 門 調 査 員	舩田 龍也	県教育委員会文化財課社会教育主事
		主 任 調 査 員	筒井 三菜	(財)高知県文化財団
		〃	中石 忍	県教育委員会文化財課社会教育主事
	調査第一班	調査第一班長	山本 哲也	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	前田 光雄	県教育委員会文化財課主任
		〃	近藤 孝文	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		調 査 員	松本 安紀彦	(財)高知県文化財団
	調査第二班	調査第二班長	吉成 承三	〃
		主 任 調 査 員	坂本 幸繁	県教育委員会文化財課社会教育主事
		〃	徳平 涼子	(財)高知県文化財団
	調査第三班	調査第三班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	鍵山 真一	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	山田 耕造	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	坂本 憲昭	(財)高知県文化財団
		契 約 職 員	西川 雅美	〃
	調査第四班	調査第四班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専 門 調 査 員	安岡 猛	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	井上 昌紀	〃
		〃	藤野 明弘	〃
		主 任 調 査 員	久家 隆芳	(財)高知県文化財団
		〃	下村 裕	〃
		調 査 員	島内 洋二	〃
		契 約 職 員	奥宮 千恵子	〃
	〃	友永 可奈	〃	

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地：高知県南国市篠原南泉1437-1

敷地面積：4,203㎡

建物構造：本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫：重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積：2,073.65㎡

(本館：617.02㎡ 北館：263.12㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡)

延床面積：4,073.54㎡

(本館：1,037.11㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,472.11㎡)

事業費：650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

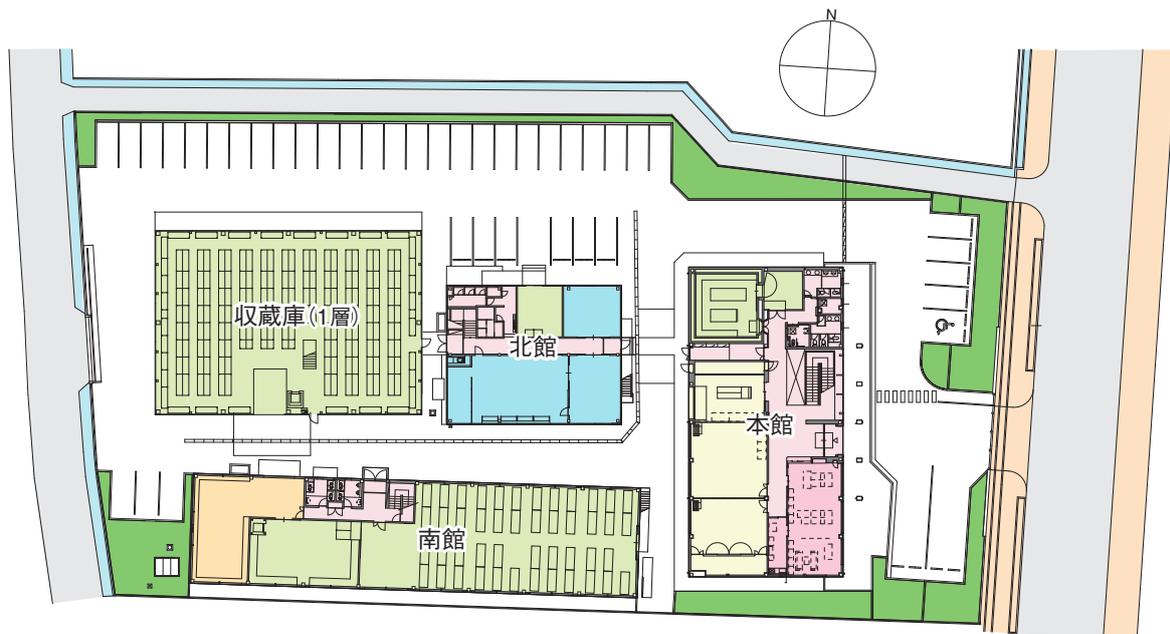


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

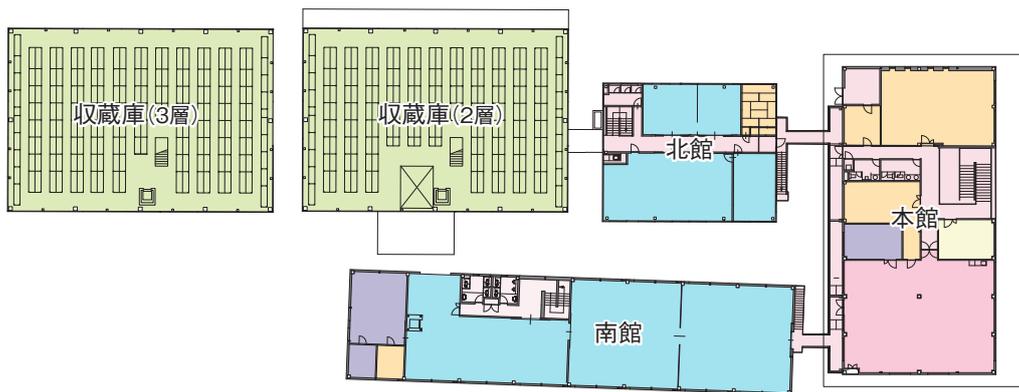


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

### 4. 利用方法等について

#### (1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

#### (2) 利用時間

午前9時から午後5時まで

#### (3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(8・9月は土・日曜日、祝祭日も開館、10～1月は土曜日のみ開館)

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所 〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel 代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax 代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

### Ⅲ 年間事業の概要

#### 1. 発掘調査事業

平成21年度の発掘調査経費は314,965,350円で、現場作業が減り、整理作業が多くなったことにより昨年度より243,001,045円少なくなった。経費内訳は、国関係が216,751,500円(68.8%)、県関係が89,624,850円(28.5%)、市町村関係が8,589,000円(2.7%)であり、国関係の占める割合は昨年度の62.1%から6.7ポイント上がり、相変わらず当センターの発掘調査事業の中核となっている。また、いの町から昨年度発掘調査を実施した高知西バイパスに関連する町道改良工事に伴う天神溝田遺跡の整理業務を受託した。

国関係では、土佐国道事務所関係の高知南国道路外(高知南国道路・南国安芸道路・高知西バイパス)、高知河川国道事務所の波介川河口導流事業及び高知法務局総合庁舎新営に伴う埋蔵文化財発掘調査業務の3業務を実施した。発掘調査規模では高知南国道路外が最も大きく、波介川河口導流事業の約1.8倍であった。高知南国道路外では平成15年度から始まった高知南国道路と南国安芸道路、平成19年度から着手した高知西バイパスがあり、今後高知南国道路では田村遺跡群、南国安芸道路では東野土居遺跡、高知西バイパスではバーガ森北斜面遺跡の発掘調査が予定されている。波介川河口導流事業は本年度が発掘調査の最終年度で、旧堤防の下層から確認された近世初めと見られる護岸遺構と昨年まで未買収地であった部分の調査を行い、現場作業を終了した。今後平成23年度まで整理作業を行う予定である。高知法務局

表3 発掘調査推移表

年 度	受託件数	受託面積
平成 3 年度	16件	24,310㎡
平成 4 年度	11件	14,663㎡
平成 5 年度	16件	17,010㎡
平成 6 年度	10件	28,233㎡
平成 7 年度	14件	28,856㎡
平成 8 年度	20件	88,178㎡
平成 9 年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,990㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	5,912㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,519㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
合 計	307件	774,644㎡

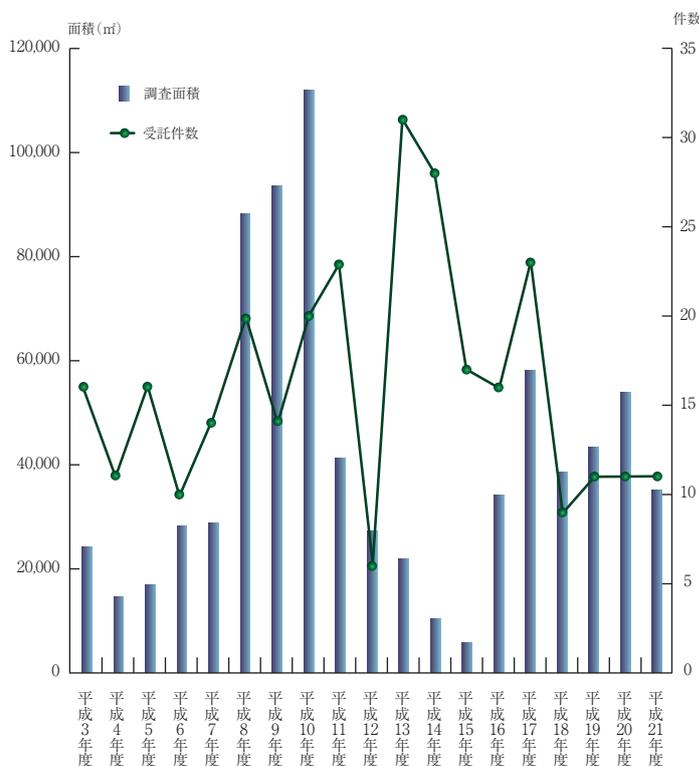


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

## 1. 発掘調査事業

総合庁舎新営に伴う発掘調査は西弘小路遺跡が対象となった。来年度から二ヵ年をかけ報告書作成に向けた整理作業を予定している。

県関係では、土木関係と教育委員会関係の2つがあり、土木関係の経費が県関係の約87%を占めた。土木関係は高知県中央東土木事務所関連の事業で、発掘調査は国道195号改築(土島田遺跡)に伴う事業について実施した。都市計画道路高知山田線(伏原遺跡・ひびのきサウジ遺跡)、県道奥西川岸本線(クノ丸遺跡)に伴う事業については報告書作成に向けた資料整理作業であった。教育委員会関係では高知城跡三ノ丸石垣改修に伴う整理作業と土佐山田養護学校寄宿舎建て替えに伴う原遺跡の発掘調査と整理作業があった。いずれも、平成21年度が最終年度となった。

平成21年度の新事業は高知法務局総合庁舎新営に伴う西弘小路遺跡の発掘調査のみでそれ以外はいずれも過年度からの継続事業であった。中でも高知南国道路、南国安芸道路などでは今後少なくとも5年以上一定規模の発掘調査が予定されている。

埋蔵文化財センターの体制は、増減なしの正職員数は26名であった。内訳は考古専門職員が13名(県派遣5名、財団職員6名、嘱託職員2名)、県派遣の事務職員が3名、派遣教員が10名である。組織構成は所長、次長の下に総務課と調査課を置き、総務課は総務課長1名、主任1名、契約職員2名、調査課は調査課長(企画調整班長を兼務)の下に、広報普及事業等を行う企画調整班、発掘調査事業を行う調査第一班から調査第四班を置く。調査課の人員内訳は調査課長兼企画調整班長1名、調査班長4名、調査員17名(専門調査員9名、主任調査員6名、調査員2名)、契約職員3名であり、この内実質的に発掘調査を担当するのは考古専門職員10名、派遣教員8名である。

表4 平成21年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積 (㎡)	調査期間	事業者	原因	委託者
1	東野土居遺跡	09-1KH	香南市野市町東野	中世 ～ 近世	集落跡	3,510	5/27 ～ 8/4	国交省	道路	県教委
2	関遺跡	09-2NS	南国市大埴乙字関	弥生 ～ 近世	集落跡	8,550	8/11 ～ 2/19	国交省	道路	県教委
3	天神溝田遺跡	09-4ITM	吾川郡いの町天神東他	古代 ～ 近世	集落跡	4,400	4/25 ～ 9/30	国交省	道路	県教委
4	土島田遺跡	09-5NS	南国市小籠・東崎	弥生 ～ 近世	集落跡	4,300	4/18 ～ 3/20	高知県	道路	高知県
5	上ノ村遺跡	09-8TK	土佐市新居字上ノ村	縄文 ～ 近代	集落跡	9,850	4/1 ～ 9/30	国交省	河川	県教委
6	西弘小路遺跡	09-7NK	高知市丸ノ内	古代 ～ 近代	集落跡	1,480	10/19 ～ 1/8	法務省	庁舎	県教委
7	原遺跡	09-9KH	香美市土佐山田町山田1361	弥生 ～ 中世	集落跡	710	5/18 ～ 7/17	県教委	学校	県教委
8	徳王子前島遺跡	09-10KM	香南市香我美町徳王子前島	古代 ～ 中世	集落跡	1,700	4/20 ～ 7/17	国交省	道路	県教委
合計						34,500				

遺跡名のNo.は、「IV 各遺跡の発掘調査概要」の遺跡の番号と同一である。

調査課の業務分担は、企画調整班が物品(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開, 企画展等の公開展示, 各種講座の公開講座, 出前考古学教室など指定管理による広報普及業務, 調査第一班が県関係(県土木事務所), 調査第二班が高知西バイパス, 県関係(県土木事務所, 県教育委員会), 市町村関係(いの町), 調査第三班が高知河川国道事務所関係, 調査第四班が土佐国道事務所関係と県関係(県土木事務所)に関する事業であった。

(1) 受託事業

平成21年度の受託事業件数は11件<sup>(1)</sup>で, 発掘調査と整理作業の両方が4件, 発掘調査のみが1件, 整理作業のみが6件であった。これを遺跡数で見ると, 発掘調査が8遺跡, 整理作業が15遺跡の全部で23遺跡となる。

調査面積は昨年度の約35.9%減の34,500㎡であった。平成21年度は県土木関係の事業の大半が資料整理であったため, 調査面積が少なくなっている。内訳は国関係が29,490㎡(約85.5%), 県土木関係が4,300㎡(12.5%), 県教育委員会関係が710㎡(2.0%)であった。

受託先は高知県教育委員会と高知県及びいの町であり, 前述のとおり高知県教育委員会からの受託事業は国関係の再委託3件と高知城跡三ノ丸石垣改修事業にかかる整理作業及び原遺跡の発掘調査と整理作業の5件, 高知県からの受託事業はいずれも中央東土木事務所関係で, 都市計画道路高知山田線改築工事に伴う伏原遺跡Ⅰ・Ⅱ<sup>(2)</sup>とひびのきサウジ遺跡の整理作業3件, 国道195号(あけほの

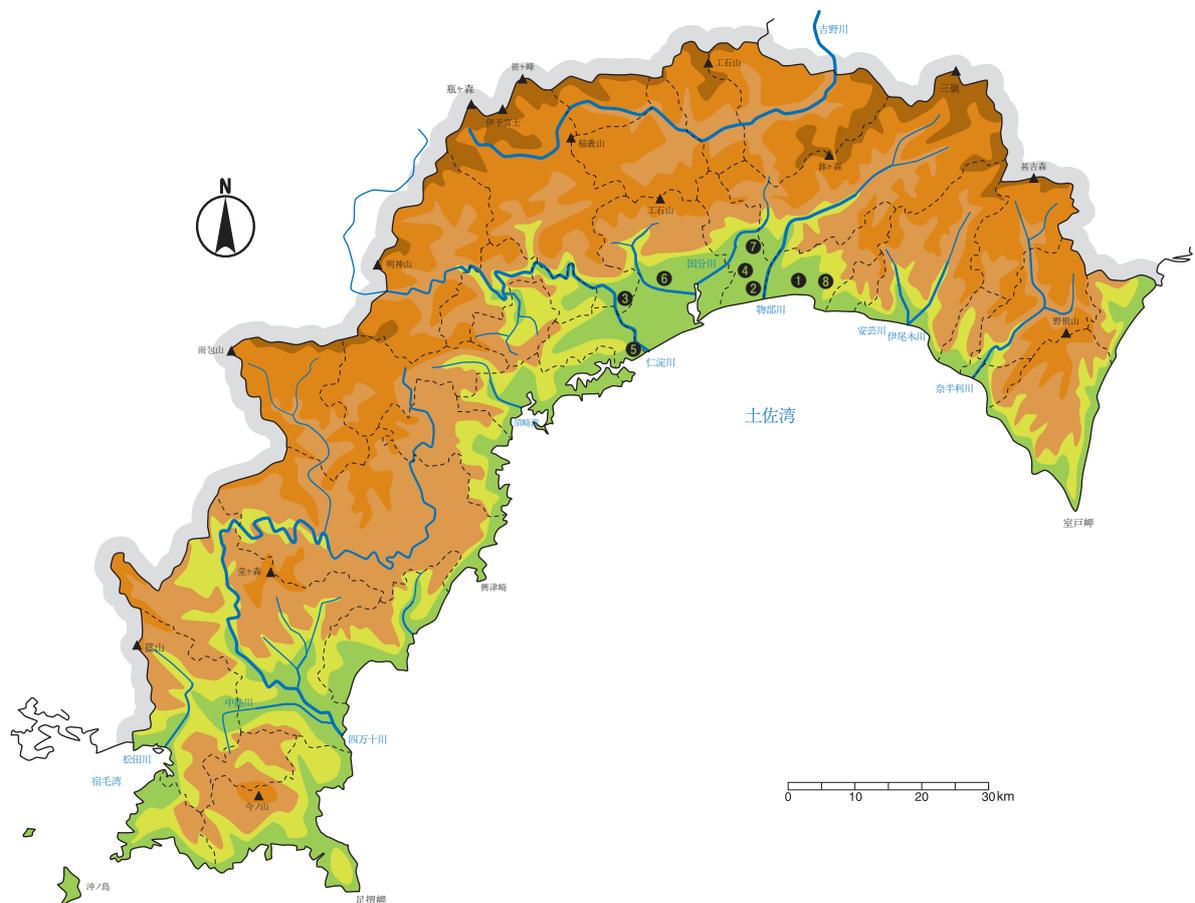


図6 平成21年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

## 1. 発掘調査事業

街道)改築工事に伴う土島田遺跡の発掘調査と県道奥西川岸本線改築工事に伴うクノ丸遺跡の資料整理業務2件の計5件、いの町からの受託事業は平成20年度に実施した町道奥名西線改良工事に伴う天神溝田遺跡の発掘調査の資料整理業務であった。

次に、各事業について具体的にみえる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の内、高知南国道路外として契約し、平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)に伴う発掘調査・整理作業及び平成19年度から着手した高知西バイパスの発掘調査がある。高知南国道路は平成21年3月31日に凍結路線となり、再開された7月から関遺跡の調査を実施すると共に西野々遺跡の整理作業を再開した。西野々遺跡については報告書の刊行が予定されていたものの、国との間で印刷部数の調整が着かず次年度以降に見送られた。

南国安芸道路では、古代の木簡などの木製品を始めとして多数の遺物が自然流路から出土した徳王子前島遺跡と近世の集落を検出した東野土居遺跡の発掘調査及び花宴遺跡等の整理作業を行った。

高知西バイパスでは仁淀川左岸にある古代から中世の集落跡とみられる天神溝田遺跡の発掘調査を行い、和鏡と古銭を埋納した状態の備前焼の壺が出土した14～15世紀の屋敷跡が確認された。

平成16年度から継続して調査を行っている波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡の発掘調査は最終年度となり、江戸時代前期の護岸遺構の下部調査や残っていた調査区の調査を実施した。また、北ノ丸遺跡の整理業務についても行った。

新規事業となった西弘小路遺跡の発掘調査では17世紀後半から18世紀前半の遺構と遺物が多数

表5 平成21年度受託発掘調査事業(整理作業)一覧表

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託先
1	西野々遺跡	05-2NN 06-2NN 07-2NN	南国市大埗字 西野々・竹中	弥生 ～ 近世	集落跡 官衙跡	H21.7/24 ～ H22.3/31	国交省	道路	県教委
2	花宴遺跡	05-16KH 06-1KH	香南市香我美町 徳王子花宴	弥生	生産遺跡	H21.4/1 ～ H22.3/31	国交省	道路	県教委
3	北ノ丸・上ノ村遺跡	07-8TK	土佐市新居字北ノ丸・上ノ村	古墳	祭祀跡	H21.4/1 ～ H22.3/31	国交省	河川	県教委
4	伏原遺跡Ⅰ	06-10KF	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 古代	集落跡	H21.4/29 ～ H22.1/31	高知県	道路	高知県
5	ひびのきサウジ遺跡	07-6YH 07-7YH	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 中世	集落跡	H21.2/27 ～ H22.1/30	高知県	道路	高知県
6	伏原遺跡Ⅱ	07-15KF 08-15KF	香美市 土佐山田町楠目	弥生 ～ 古代	集落跡	H21.4/29 ～ H22.2/28	高知県	道路	高知県
7	クノ丸遺跡	08-6KKK	香南市香我美町 岸本	弥生 ～ 近世	集落跡	H21.7/1 ～ H22.2/28	高知県	道路	高知県
8	高知城跡三ノ丸	07-9KK	高知市丸ノ内	中世 ～ 近世	城郭	H21.6/2 ～ H22.3/31	高知県	石垣	県教委
9	天神溝田遺跡	08-3ITM	吾川郡いの町 天神	弥生 ～ 近世	集落跡	H21.8/1 ～ H22.2/28	いの町	道路	いの町

出土した。遺物の中には漆器を始めとする木製品も数多くみられる。

県関係では、土島田遺跡の発掘調査と伏原遺跡Ⅰ、伏原遺跡Ⅱとひびのきサウジ遺跡及びクノ丸遺跡の資料整理を行った。土島田遺跡は平成19年度からの継続事業で、平成21年度が発掘調査の最終年度となった。調査では弥生時代後期の集落跡とそれに伴う壺棺墓群が確認されると共に7世紀代の集落跡も検出された。

県教育委員会関係では平成16年度から実施した高知城跡三ノ丸石垣改修に係る整理作業と原遺跡の発掘調査及び整理作業を実施した。

市町村からの受託事業として、昨年度実施した高知西バイパスに絡むいの町の町道改良工事に伴う天神溝田遺跡の発掘調査の整理作業を実施した。

以上、平成21年度の受託事業の概要を記したが、整理作業の比重が高かった年度であった。発掘調査では今後も東部自動車道関係の発掘調査が中心となり、田村遺跡群を始めとした大規模遺跡の調査に臨むことになり、現場を担当する専門調査員不足が懸念される。

(2) 発掘調査報告書

平成21年度は昨年度と打って変わって、8冊の報告書を刊行した。平成18年度から行われていた発掘調査が昨年度までに終了した県道関係の報告書が中心で、『伏原遺跡Ⅰ』、『伏原遺跡Ⅱ』、『ひびのきサウジ遺跡Ⅲ』、『クノ丸遺跡』の4冊、県教育委員会関係では『史跡 高知城跡』と『原遺跡』の2

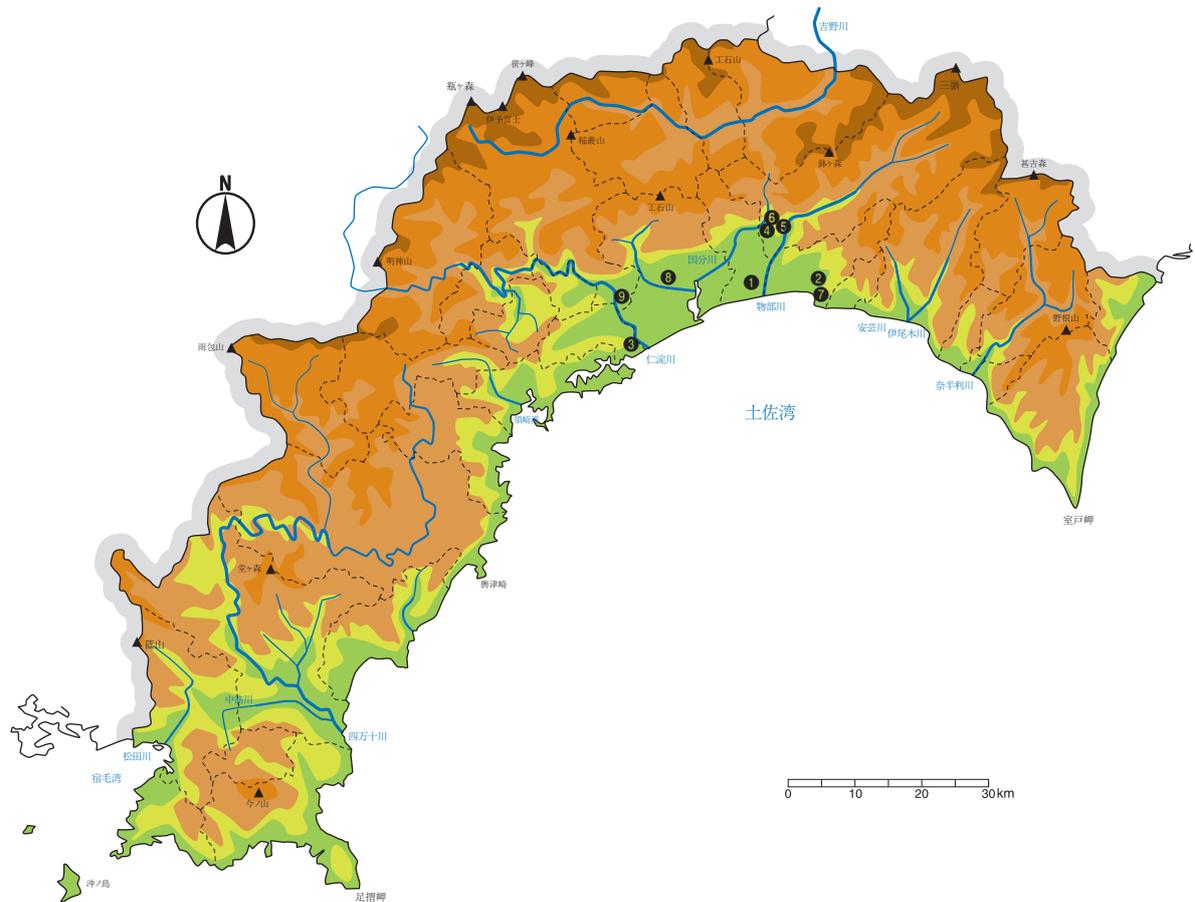


図7 平成21年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業)一覧表の番号と一致)

## 1. 発掘調査事業

冊、高知河川国道事務所関係の『上ノ村遺跡Ⅰ』、市町村関係ではいの町の『天神溝田遺跡』であった。土佐国道事務所関係の報告書については印刷部数の調整がつかず、報告書の印刷経費は計上できなかった。

また、国関係では発掘調査が終了し、整理作業を行わなければならない遺跡も少なからずあるが、委託者からの要請で発掘調査を優先せざるを得ず限られた調査員では報告書刊行に至るまでの整理作業ができなかったことも一つの要因に挙げられる。

いずれにしても、粛々と整理作業を行っていくことが発掘調査を担った者の責務であり、平成22年度には国関係の整理作業を受託した事業で報告書の印刷経費が盛り込まれている。

### 註

- (1) 国関係事業については事務所単位の国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。土佐国道事務所関係では、高知南国道路外として高知南国道路(西野々遺跡、関遺跡、向山戦争遺跡)、南国安芸道路(花宴遺跡、徳王子前島遺跡、徳王子大崎遺跡、徳王子広本遺跡、坪井遺跡、東野土居遺跡)、高知西バイパス(天神溝田遺跡、貢山城跡、鎌田遺跡、城ヶ谷山遺跡)の発掘調査と整理作業を行い、高知河川国道事務所関係では、上ノ村遺跡の発掘調査と整理作業及び北ノ丸遺跡の整理作業を行った。
- (2) 調査年度によって遺跡を分け、平成18年度分が伏原遺跡Ⅰ、平成19・20年度分が伏原遺跡Ⅱとして別々に契約し、整理作業を実施した。

## 2. 指定管理事業

平成21年度は1年限りの(財)高知県文化財団として指定管理者になり、高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行った。年間4回の展示会、41回の公開講座、53校への出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など広報普及事業に取り組み、入館者は徐々にではあるが増加し、指定管理業務を行うようになって2年目の平成19年度には開設以来初めて2,000人を突破し、3年目の平成20年度は2,500人を超え、平成21年度は2,866人の入館者を数えた。昨年度に引き続き「掘りゆうぜよ高知2009遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内の小中学生全員に配布したところ本年度も大きな反響があり、親子考古学教室には対前年度比27%増の870人の参加があった。この参加数そのまま入館者数の増加数に反映している。

### (1) 公開展示

埋蔵文化財センターの発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開し、埋蔵文化財保護の推進及び普及啓発を図ると共に県民文化の振興に寄与することを目的として、年4回の展示会を開催した。なお、高知県立埋蔵文化財センターには展示室が1室のみであり、常設展示は行っていない。展示構成は、第1回を企画展1として「考古資料からみた高知県の歴史」と題した通史的な展示、第2回を四国地区埋蔵文化財センター巡回展である「第1回 続・発掘へんろ」、第3回を企画展2としてあけぼの道路建設に伴う発掘調査成果について展示した「道路開発であらわれた遺跡展Ⅲ」、第4回を特別展とし、「紀貫之とその時代－土佐の古代遺跡－」についての展示を行った。各展示会では展示報告会と展示解説会を各1回、特別展では特別記念講演会を開催した。この内、



写真1 年間行事カレンダー

巡回展, 企画展2, 特別展については報道機関に後援を依頼し, 告知放送をお願いした。

なお, 平成21年度は入館者数目標を平成20年度の約10%増の2,800人と設定した。

① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題した企画展で, 旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財センターに所蔵する発掘調査で得られた出土文化財を展示することで, 高知県の歴史を概観できるように心掛けた。また, 観覧の便を供するために展示解説シートを作成した。会期は4月21日から7月10日までの64日間(休館日の土・日曜日, 祝祭日は除く, ただし, 公開講座等開催日は開館)で, 5月9日(土)に展示報告会, 6月27日(土)に展示解説会を開催し, 報告会には18人, 解説会には16人の参加があった。入館者数は508人で, 対前年度増加率は約13%であった。



写真2 企画展2展示報告会

② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展第1回「続・発掘へんろ」

四国四県の埋蔵文化財センターの共同企画展で, 昨年度まで実施した「発掘へんろ」が各埋蔵文化財センターを一巡したことから, 本年度より5ヵ年計画で「続・発掘へんろ」と名称を改め開催することとなり, 今回が第1回となる。「遺跡にみる四国のすがた」をメインテーマに, 第1回は「旧石器時代・縄文時代」にスポットを当て, 展示すると共に, 速報展として各埋蔵文化財センターの近年の発掘調査成果も展示した。西日本でも珍しい尖頭器や最古の縄文土器と考えられている豆粒文土器などが入館者の注目を受けた。会期は7月27日から9月18日までの54日間(休館日なし)とし, 入館者は1,417人で, 対前年度増加率は約16%であった。7・8月の夏休み期間は親子考古学教室を中心に各種の講座もあり, 公開展示の中で最も多くの入館者があった。なお, 8月1日(土)に開催した展示報告会には27人, 9月5日(土)に



写真3 続・発掘へんろポスター

表6 入館者推移表と平成21年度の入館者

年度	合計	内訳(人数)								入館者数内訳		
		常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	速報展	特別展	その他	子ども	大人	展示報告・解説
H13年度	811	811	-	-	-	-	-	-	-	487	324	-
H14年度	821	177	-	644	-	-	-	-	-	493	328	-
H15年度	1,171	468	-	703	-	-	-	-	-	703	468	20
H16年度	1,522	402	802	319	-	-	-	-	-	913	609	-
H17年度	1,180	300	537	342	-	-	-	-	-	708	472	-
H18年度	1,555	504	449	-	-	-	482	-	120	582	973	47
H19年度	2,182	392	809	501	-	-	-	333	147	348	1,834	87
H20年度	2,561	-	1,224	-	451	328	-	253	305	740	1,821	147
H21年度	2,866	-	1,417	-	508	388	-	363	190	905	1,961	170
合計	14,669	3,054	5,238	2,509	959	716	482	949	762	5,879	8,790	471
平均	1,630	436	873	502	480	358	482	316	191	653	977	94

## 2. 指定管理事業

開催した展示解説会には13人の参加があった。

### ③ 企画展2

平成19年度から5ヵ年計画で実施している道路開発に関して発掘調査を行った遺跡の企画展で、本年度は「道路開発であらわれた遺跡展Ⅲ－あけぼの道路建設に伴う発掘成果から－」について10月13日から12月28日までの63日間(休館日の日曜日・祝祭日を除く)開催した。展示では、小籠遺跡とミトロ遺跡出土遺物ならびに土島田遺跡から検出した壺棺などを列品した。会期中には土島田遺跡の発掘調査も行われており、足を伸ばされた方もいた。展示報告会を10月17日(土)に開催し16人、展示解説会を12月12日(土)に開催し18人の参加者があった。入館者数は388人で、対前年度増加率は約18%であった。

### ④ 特別展

平成22年1月22日から3月19日までの46日間(休館日の土・日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等開催日は開館)「紀貫之とその時代」と題した土佐の古代遺跡に関する特別展を開催した。

高知県で唯一の博覧を始めとして陶硯や墨書土器など官衙関連遺物を中心に展示を行った。展示に「紀貫之」という名が入っていたこともあり入館者は昨年より110人多い363人で、対前年度増加率は約43%であった。また、1月23日(土)には展示報告会、3月6日(土)には展示解説会を開催し、報告会には35人、解説会には27人の参加があった。



写真5 特別展ポスター

### (2) 公開講座等

公開講座として考古学の知識と共に地域の歴史や遺跡について興味や関心を高めることにより、埋蔵文化財保護推進を図るため、① 考古学講

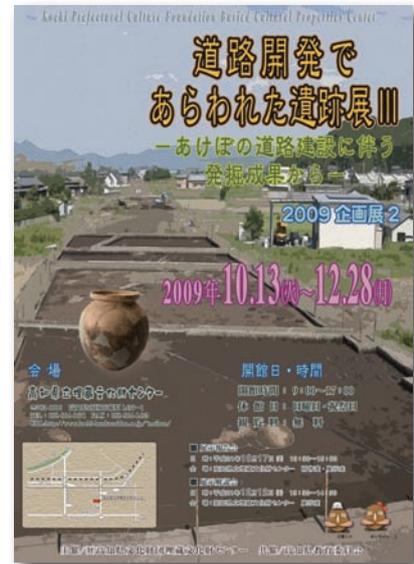


写真4 企画展2ポスター

また、特別展の関連企画として、文化庁文化財部記念物課山下信一郎文化財調査官を講師に迎え「古代の土佐－その政治と文化－」と題した一般向けの講演会を2月7日(日)にかるぼと小ホールで開催し、110人の参加があった。なお、対前年度増加率は約45%であった。



写真6 特別記念講演会

座4回, ② 発掘調査報告会4回, ③ 親子考古学教室22回, ④ 先生のための考古学教室2回, ⑤ 古代ものづくり体験教室8回, ⑥ 遺跡見学会1回の6事業41回を実施した。

平成21年度も、少なくとも月1回の開催を目標に、平成20年度とほぼ同じ6種類の講座を計画し、夏休み前には「掘りゆうぜよ高知2009遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを県内の小中学生全員に配布して講座の周知を図った。このチラシが予想以上の反響を呼び、親子考古学教室と古代ものづくり体験教室に応募が殺到し、年4回の計画であった親子考古学教室を18回追加し、計22回、年5回の計画であった古代ものづくり体験教室を3回追加し、計8回開催した。

また、講座の周知には年間行事カレンダーの配布以外に、毎回高知新聞夕刊の伝言板に案内を掲載してもらおうと共にこれまでの講座参加者には案内の葉書を郵送した。

① 考古学講座

「遺跡からみる交流と流通」を共通テーマとして若手のプロパー職員が担当し年4回、午後1時30分から3時30分までの2時間の講座として開催した。第2回は四万十市教育委員会との共催により四万十市立中央公民館で行った。参加者総数は99人で対前年度増加率は19%であった。毎回参加して下さる方も多く、講座として定着してきたように感ずる。



写真7 発掘調査報告会

表7 平成21年度考古学講座

No.	開催日	内容	担当者
1	平成21年5月23日	縄文時代	下村 裕
2	平成21年7月18日	弥生・古墳時代	久家隆芳
3	平成21年11月14日	古代・中世	徳平涼子
4	平成22年1月30日	近世	筒井三菜

表8 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		親子考古学教室	考古学講座	発掘調査報告会	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会 発掘調査見学会	先生のための考古学教室
H13年度	—	—	—	—	—	—	—
H14年度	48	48	—	—	—	—	—
H15年度	109	109	—	—	—	—	—
H16年度	175	175	—	—	—	—	—
H17年度	120	120	—	—	—	—	—
H18年度	431	270	136 (54)	—	—	25	—
H19年度	446	148	110 (75)	138	35	6	9
H20年度	1,122	686	83 (47)	173	148	22	10
H21年度	1,187	870	99 (29)	106	89	17	6
合計	3,638	2,426	428 (205)	417	272	70	25
平均	455	303	107	139	91	18	8

※考古学講座の( )内人数はセンター以外(四万十市・南国市)での参加人数

2. 指定管理事業

② 発掘調査報告会

埋蔵文化財センターが実施した近年の発掘調査の内、注目された4遺跡の発掘調査を取り上げ、検出遺構等のスライドを交えながら平易に解説すると共に出土遺物も実見してもらい、より一層遺跡について理解を深めていただいた。午後1時30分から3時までの90分の講座で、年4回、

埋蔵文化財センターで開催した。参加者総数は106人で、67人減少の対前年度増加率は-39%であった。注目された遺跡を講座に取り上げたものの、参加者の増加に繋がらなかったことは残念である。

表9 平成21年度発掘調査報告会

No.	開催日	内容	担当者
1	平成21年 6月20日	南国市向山戦争遺跡	出原恵三
2	平成21年 8月22日	いの町天神溝田遺跡	吉成承三
3	平成21年 10月24日	南国市土島田遺跡	前田光雄
4	平成21年 12月 5日	土佐市上ノ村遺跡	池澤俊幸

③ 親子考古学教室

前述のチラシ効果で、本年も多数の応募があり、18回追加し、合計22回開催した。内容は、親子での勾玉づくりと火起こし体験で、勾玉づくりではまず、「勾玉の神秘」と題するスライドで勾玉の歴史について説明した上で、スライドにあった実際の勾玉を参考に滑石で作ってもらった。火起こし体験では、実演した上で、マイギリによる火起こしを行ってもらい、着火に成功した親子にはキリモミに挑戦してもらった。参加人員は870人(内訳大人366人、子供504人)で、対前年度増加率は27%となった。公開講座中では最も人気の事業であると共に子供が考古学に出会う講座である。

④ 先生のための考古学教室

学校現場の先生に考古学へ興味を持っていただくために平成19年度から企画したもので、高知県教育員会の教職員研修等案内に掲載していただくと共に、本年度は県内各校に案内メールを送信して募集を行った。開催は夏休み期間を利用して2回(8月3日(月)・8月25日(火))実施した。内容は、考古学概説や発掘調査現場体験(土島田遺跡)、火起こし、勾玉づくり体験であった。天候に恵まれ、非常に好評であったものの、参加者は各3人の合計6人で、昨年よりも4人少なかった。アンケートでは、講座名が取っ付きにくいとの意見があり、次年度は講座名を変更して募集してみたい。

⑤ 古代ものづくり体験教室

平成19年度から企画した講座で、前述のチラシ効果でガラス玉づくりを中心に応募が多く、当初予定の5回に加え3回追



写真8 掘りゆうぜよ高知2009



写真9 親子考古学教室

加し、合計8回開催した。昨年度に比べ開催回数が4回少なかったこともあり、参加総数は89人と、昨年度に比べ59人少なかった。内容は勾玉づくり、土製品づくり、ガラス玉づくりで、一度に対応できる人数が限られるため、回数を増やすことで応募に対応した。

⑥ 発掘現場見学会

埋蔵文化財センターが実施している発掘調査中の現場を調査員が案内し、遺跡の概要を解説するもので、本年度は高知南国道路建設に伴って発掘調査を行っている関遺跡で10月21日(水)に開催し、昨年度より5人少ない17人の参加があった。現地説明会と異なり、実際調査中の発掘現場を見学することで、遺構が検出される様子や遺物が出土する状況等を見てもらうことができた。

(3) 情報公開等

インターネットを活用した情報公開、物品(県有物)等の貸出、施設見学、職場体験及び発掘現場見学などの受け入れを行った。

表10 平成21年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者		
企画展1(4月21日~7月10日)			考古学講座		発掘調査報告会			
展示報告会	5月9日(土)	18人	1	5月23日(土)	27人	1	6月20日(土)	38人
展示解説会	6月27日(土)	16人	2	7月18日(土)	29人	2	8月22日(土)	22人
巡回展(7月27日~9月18日)		3	3	11月14日(土)	16人	3	10月24日(土)	26人
展示報告会	8月1日(土)	27人	4	1月30日(土)	27人	4	12月5日(土)	20人
展示解説会	9月5日(土)	13人	古代ものづくり体験教室		先生のための考古学教室			
企画展2(10月13日~12月28日)		1	5月30日(土)	24人	1	8月3日(月)	3人	
展示報告会	10月17日(土)	16人	2	8月12日(水)	22人	2	8月25日(火)	3人
展示解説会	12月12日(土)	18人	3	9月26日(土)	16人	発掘現場見学会		
特別展(1月22日~3月19日)		4	4	12月19日(土)	12人	10月21日(水)		17人
展示報告会	1月23日(土)	35人	5	2月13日(土)	15人			
展示解説会	3月6日(土)	27人						
記念講演会	2月7日(日)	110人						



写真10 古代ものづくり体験教室



写真11 発掘現場見学会

## 2. 指定管理事業

### ① ホームページ

平成19年度にリニューアルし、引き続き同じテンプレートを平成21年度版に更新すると共により見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日30～70件であった。

(財)高知県埋蔵文化財センター URL : <http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

### ② Web公開データベース

高知県立埋蔵文化財センターの情報管理室に設置したWeb公開サーバーに埋蔵文化財情報管理システムと報告書PDFを置き、一般公開している。埋蔵文化財情報管理システムでは遺跡情報管理(遺跡台帳でPDF化した報告書があるものはそれにリンク)、収蔵図書情報管理(図書台帳)、県内発掘調査情報管理(県内の発掘報告書抄録)を掲載している。報告書PDFは名前のおり、PDF化した報告書等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しており、平成21年度は前述の8冊の報告書と年報第18号及び現地説明会資料を新たに掲載した。また、複数の報告書を刊行している遺跡については、遺跡の紹介から関係報告書にアクセスできるように改良した。

PDFデータは一括ダウンロードとデータ量によっては分割ダウンロードもできるようにしており、利用者の便を図っている。

Web公開データベース URL : <http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

### ③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に則り、迅速かつ適切に管理と貸出を行い、交換図書として寄贈された報告書等も随時登録し、Web公開して一般の方に情報提供している。また、平成21年度は県から緊急雇用創出データ作成業務として故木村剛朗氏の遺族から寄贈された2,264冊の図書のデータ登録作業を受託した。

なお、収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのイントラネットで検索できるシステムとしている。

平成21年度の物品(県有物)等の貸出は18件で、うち他施設への貸出は12件、残りの6件はセンター内での実見・実測であった。

表11 平成21年度公開講座2

親子考古学教室			
	開催日	回数	参加者
1	7月25日(土)	2回	82人
2	8月14日(金)	2回	89人
3	8月15日(土)	2回	81人
4	8月16日(日)	2回	76人
5	8月17日(月)	1回	38人
6	8月18日(火)	1回	32人
7	8月19日(水)	1回	43人
8	8月20日(木)	2回	75人
9	8月21日(金)	1回	46人
10	8月23日(日)	2回	77人
11	8月29日(土)	2回	80人
12	8月30日(日)	2回	82人
13	9月12日(土)	2回	69人



写真12 ホームページ

表12 平成21年度物品(県有物)貸出一覧

No.	日時	依頼者	内容	備考
1	H21.4.1～H22.3.31	愛知県陶磁資料館	資料展での展示	
2	H21.4.1～H22.3.31	高知大学 清家章	考古学実習	考古学研究室
3	H21.4.13～H21.4.20	南国市立三和小学校	社会科の授業での教材	
4	H21.4.14～H21.4.21	高知市立潮江中学校	社会科の授業での教材	
5	H21.5.13～H21.5.22	高知市立春野中学校	社会科の授業での教材	
6	H21.5.27～H21.6.5	高知大学 岡本治代	論文執筆	センター内
7	H21.6.22～H21.7.2	いの町立伊野中学校	社会科の授業での教材	
8	H21.7.7	安城市教育委員会	土器焼成技術研究	センター内
9	H21.7.9～H21.7.16	いの町立伊野中学校	社会科の授業での教材	
10	H21.7.28～H21.9.25	高知市教育委員会	企画展での展示	
11	H21.8.25～H21.8.28	高知大学 山崎香菜恵	卒業論文執筆のため	センター内
12	H21.9.14～H21.11.20	高知県立歴史民俗資料館	特別展での展示	
13	H21.9.7～H22.6.30	国立歴史民俗博物館 花巻市博物館	企画展での展示	
14	H21.10.29～H21.10.30	高知大学 渡邊早苗	卒業論文執筆	センター内
15	H21.10.29～H21.10.30	高知大学 山崎香菜恵	卒業論文執筆	センター内
16	H21.10.14～H22.3.31	国立歴史民俗博物館	胎土分析	
17	H21.12.1	高知大学 山崎香菜恵	卒業論文執筆	センター内
18	H21.12.1～H23.11.30	奈良文化財研究所	動物遺存体加工痕の研究	

#### ④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても受け入れており、平成21年度は、昨年度と同じ30件の団体見学の受け入れを行った。件数は昨年度と同じであったものの総数では141人多い、797人であった。

本年度の特徴は、小中学校等の職場体験学習(職場実習も含む)が8件と昨年度(2件)に比べ大幅に増加した点である。小中学校で職場体験学習が取り入れられていることがその背景にはあろうが、発掘調査の整理作業を行っている事業所として高知県立埋蔵文化財センター

が周知されるようになったことが職業体験の場として考慮された大きな要因と考えられる。なお、中には、考古学に興味があり、将来職業にしたいと考えている中高校生の職場体験学習などもあった。その反面、小中学校等学校からの施設や発掘現場見学依頼は6件と昨年度(15件)から減少した。

また、文化財関係や教育関係など各種団体の実習や研修の受け入れも行っており、少しずつではあるが、埋蔵文化財センターの知名度が上がってきているものと思われる。

今後は、内容の充実を図ると共に歴史教育に欠くことのできない施設であることをより一層アピールして行くことが必要である。



写真13 施設見学

## 2. 指定管理事業

表13 平成21年度施設等見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	前浜・久枝高齢者教室	H21.4.22	32		32	展示見学
2	香南市立野市小学校	H21.5.11	34	2	36	展示・館内見学, 体験学習
3	高知市立養護学校	H21.6.2~ 6.12	1	2	3	現場実習
4	高知県土木部河川課	H21.6.5	25		25	現場見学
5	南国市立香長中学校	H21.6.17~ 6.19	1	1	2	職場体験学習
6	香南市立野市小学校	H21.6.17	34	2	36	展示・館内見学, 体験学習
7	香南市立野市小学校	H21.6.19	39	3	42	展示・館内見学, 体験学習
8	高岡地区文化財保護連絡協議会	H21.6.23	80		80	現場見学
9	香南市立野市小学校	H21.6.24	7	1	8	職場体験学習
10	国土交通省四国地方整備局四国産 地砂防事務所大豊監督官	H21.6.26	40		40	現場見学
11	いの町立伊野中学校	H21.7.7	120	1	121	現場見学
12	お絵かき教室ガネーシャ	H21.7.17	10	3	13	体験学習
13	南国市教育研究所	H21.7.28	21	5	26	体験学習
14	高知県立追手前高校	H21.7.30	7	2	9	職場体験学習
15	南国市文化とスポーツ振興NPO	H21.8.2	21	14	35	展示・館内見学, 体験学習
16	高知・香長・安芸定通教育研究会	H21.8.7	17		17	展示・館内見学
17	高知大学	H21.8.17~ 8.21	2		2	博物館実習
18	南国市学童保育連絡協議会	H21.8.19	21	3	24	展示・館内見学, 体験学習
19	南国市立長岡小学校	H21.9.2	41	3	44	現場見学
20	社会福祉法人さわらび会	H21.9.7~9.11	85		85	展示見学
21	高知県職業訓練能力開発協会	H21.10.14~ 11.12	2		2	職業訓練実習
22	香川県文化財保護協会仲多度支部	H21.10.23	24		24	展示・館内見学
23	安芸市立東川小学校	H21.11.17	3	4	7	展示見学, 体験学習
24	香南市立野市小学校	H21.11.19	4	1	5	職場体験学習
25	南国市立北陵中学校	H21.12.15~ 12.17	3	1	4	職場体験学習
26	香南市立野市小学校	H22.1.19~ 1.20	3	1	4	職場体験学習
27	高岡地区文化財保護連絡協議会	H22.2.18	53		53	展示・館内見学, 講話
28	土佐中学校	H22.2.19	4		4	校外学習
29	高知市立三里中学校	H22.2.24	5		5	職業調べ学習
30	久万高原町文化財保護委員会	H22.3.16	9		9	展示見学
合計			748	49	797	

(4) 出前考古学教室

平成10年度に南国市内の小中学校を対象とした試行から数えて、12年目を迎え、これまでに小学校を中心に394回実施し、参加校は延べ468校、授業を受けた児童生徒数<sup>(1)</sup>は延べ14,562人、展示・体験学習等の参加者<sup>(2)</sup>総数は22,698人を数える。

前年度末に行う出前考古学教室の募集では、平成20年度とほぼ同じ件数の申込みがあり、実施できる回数に限りがあることから初めての学校を優先して実施校を決定している。県下的には中央教育事務所管内を中心に西部教育事務所管内からの申込みが目立つ一方、東部教育事務所管内からの申込数は毎年少なく、地域によって埋蔵文化財に対する関心に温度差を感じる。これはある面遺跡数とも関係しているようである。

一方、一度出前考古学教室の授業を受け入れてくれた学校、中でも申込んだことのある先生はほぼ毎年申込んでくれており、先生の埋蔵文化財への関心の有無が出前考古学教室の申込数に少なからず関係しているように思われる。また、埋蔵文化財センターへ派遣された教員が学校現場に復帰した際に前出前考古学教室を始めとして施設見学等に申込んでくれることもあり、徐々にではあるが埋蔵文化財センターの存在が知られるようになったものと思われる。

① 概要

例年どおり、前年度末に実施校を決定した上で、4月に各学校の担当と実施日の時間帯や準備などについて電話等により打合せを行った。平成18年度以前は4月に実施校に出向き事前の打合せを行っていたが、カーナビゲーションの導入等により電話等で事前打合せを行うこととし、経費削減に繋がっている。

さて、平成21年度は5月1日の南国市国府小学校を皮切りに平成22年2月12日の土佐市立波介小学校まで48回行い、実施校数は合同開催を含める<sup>(3)</sup>と延べ53校、授業を受けた児童

表14 平成10～21年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	実施回数	参加校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前半/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前半	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前半	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前半	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前半	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前半	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前半	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中学校	48回	53校	前・後	1,369人	1,438人
合計				394回	468校		14,562人	22,698人

## 2. 指定管理事業

生徒数は1,369人、体験学習等の参加者は1,438人であった。

### i 前期

前期は30回、合同開催を含めると35校で実施した。授業を受けた児童生徒数は953人、体験学習等の参加者は972人を数える。4月初旬から下旬にかけて開催決定した学校へ電話とFAXで実施日の時間帯や授業・体験学習の内容等について打合せした上で、5月1日の南国市立国府小学校を皮切りに、7月7日の高知市立旭小学校まで行った。



写真14 出前考古学教室

### ii 後期

後期は18回実施した。授業を受けた児童生徒数は416人、体験学習等の参加者は466人を数えた。平成21年度は世界的な新型インフルエンザの流行の影響で、例年に比べ後期の申込みが少なかった。8～9月に開催校と実施日等について調整を行い、10月9日のいの町立長沢小学校から2月12日の土佐市立波介小学校までの18校で実施した。

## ② 内容

文化財保護に関する普及啓発と歴史学習の推進を目的に、授業と体験学習の2本立てで行い、授業では高知県の各地域の遺跡や発掘調査関連、各時代の特徴を捉えて行ない、体験学習では遺物の展示見学と火起こしや勾玉づくりなどを行った。

また、本年度もボランティアの皆さんに、火起こしや勾玉づくり体験の準備と実施中の生徒支援の協力をしてもらった。

### i 授業

考古学が歴史と大きく関わっていることもあり、対象は小学6年生を中心に社会科授業の一環として行っている。既に子ども達は、授業で時代の流れや遺跡について教わっているが、机上の勉強で暗記による不確かな学び方をしていることが多い。土器の実物や身近な地域にある遺跡について知っておれば、理解も深まり定着度も高まると思われる。

実際の縄文・弥生土器や遺跡地図を利用して授業展開することが基本であるが、展示解説と合併した授業も教育効果があるように思う。当センターの仕事である発掘調査や整理作業を知ってもらうには、視聴覚機器を使用した授業が、分かりやすく良かったのではないかと思う。

### ii 体験学習

無料で行う火起こし体験と有料のため希望校で行う勾玉づくり、そして土器づくりなどの体験教室を行った。

#### a. 火起こし

出前考古学教室の中で最も人気がある体験学習である。火起こしは当日の天候状態、道具(火きり棒と火きり臼)の相性、児童の操作技術で発火できないこともあるが、果敢に挑戦する姿が見られ、成功するたびに歓声があがった。火起こし道具は、マイギリから始めているがキリモミ等も用意して、

児童たちには幅広い火起こしの方法を体感してもらった。市販の弓ギリ式は、20秒程で発火するらしいが、コツが必要で2人で15分ぐらいやっても火が起こらない事もあった。

この学習のねらいの一つとして、子ども達が火起こしの難しさを知って、古代人の工夫や苦勞と

表15 平成21年度出前考古学教室前期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒数		担当職員	ボランティア
				学年	人数	学年	人数		
1	5/1	南国市	国府小	6年	12	6年	12	2	
2	5/7	高知市	土佐山小	5・6年	10	5・6年	10	2	
3	5/8	香美市	片地小	6年	22	6年	22	3	
4	5/12	本山町	本山小・吉野小	6年	26	6年	26	3	2
5	5/13	いの町	川内小	6年	18	6年	18	2	
6	5/15	高知市	小高坂小	6年	62	6年	62	3	1
7	5/18	いの町	伊野南中	中1年	66	中1年	66	3	3
8	5/19	高知市	高須小	6年	132	6年	132	4	5
9	5/21	南国市	高知若草養護学校 土佐希望の家分校	中3年	1	中3年	1	2	
10	5/25	土佐市	蓮池小	6年	44	6年	44	2	1
11	5/28	四万十市	八束小	5・6年	27	4～6年	34	3	
12	5/29	宿毛市	松田川小	6年	13	5・6年	25	3	
13	6/2	越知町	越知小	6年	45	6年	45	3	1
14	6/4	黒潮町	伊田小	1～6年	22	1～6年	22	3	
15	6/5	四万十市	蕨岡小	5・6年	26	5・6年	26	3	
16	6/9	高知市	鏡小	6年	20	6年	20	2	
17	6/10	南国市	長岡小	6年	41	6年	41	2	2
18	6/11	黒潮町	三浦小・田ノ口小	5・6年	44	5・6年	44	3	
19	6/12	四万十市	下田小	6年	17	6年	17	3	
20	6/15	須崎市	浦ノ内小・横浪小	5・6年	30	5・6年	30	2	
21	6/16	室戸市	羽根小	6年	14	6年	14	2	
22	6/18	安芸市	井ノ口小	5・6年	34	5・6年	34	2	1
23	6/22	香南市	赤岡小	6年	27	6年	27	2	1
24	6/25	黒潮町	入野小・南郷小	6年	39	6年	39	3	
25	6/26	三原村	三原小	6年	9	6年	9	3	
26	6/29	馬路村	魚梁瀬小・魚梁瀬中	小2～中	23	小2～中	23	2	
27	7/1	高知市	盲学校	高等部	5	高等部	5	2	
28	7/2	土佐市	戸波小	6年	25	6年	25	2	1
29	7/3	仁淀川町	池川小	6年	8	6年	8	2	
30	7/7	高知市	旭小	6年	91	6年	91	4	3
合計					953		972	77	21

## 2. 指定管理事業

現代文明の恵まれた環境を実感させることも大切であると考えている。

### b. 勾玉づくり

火起こし同様、出前考古学教室では欠かすことができないものである。材料費が1人300円必要だが、多数の学校が希望する体験学習である。古代人の思いや作る大変さを感じながら、石が自分のイメージした勾玉になっていく楽しさを味わえるのが好評の理由である。

事前に学校で勾玉の形を工作用ノコギリ(糸鋸)で切ってもらくと、1時間半ほどで仕上がる。時間的な余裕がある学校では、プロジェクターで「勾玉の神秘」の映像を見せながら、勾玉の由来やそのつくり方の手順を説明することで、勾玉に対する理解をより一層深めてもらうと共に効率的に作業ができた。自分の願いを込めた勾玉ができ、満面の笑みをみせた生徒の顔が印象的であった。

### iii 遺物の展示解説

実施学年以外にも希望する学年があった時は、時間の許す限り展示物の解説を行なった。本物を見る機会が少ないため、発掘調査で出土した土器や石器等を実見することで、既に学習した内容を再確認でき、絵図や写真を使った解説が好評であった。身近な地域から出土した実物を見て触れさせることで、私たち祖先の生きざまや古代人の生活をあらためて考え直し、こみあげる思いやロマンを感じることだろう。そこから文化財を大切にしようという心が育つのではないだろうか。



写真15 遺物展示解説

### iv ボランティア

11名の方にボランティアの協力をお願いした。火起こしや勾玉づくりでは準備と活動中の児童・生徒への支援、遺物展示については土器などを入れたコンテナの運搬と片付けの補助を行っていただいた。担当職員が少ない現状では、中規模校以上の学校での体験学習にボランティアの協力は不可欠である。年輩であるが何回も参加下さっている方も多く、子ども達を上手に指導してくれている。

### ③ 本年度の成果

出前考古学教室は、後述するアンケート結果からも分かるように、児童・生徒や教員にたいへん好評であった。授業では遺跡を中心に教科書学習では味わえない時間を過ごし、火起こしや勾玉づくり等を通して古代の人々の暮らしや生活の一部を楽しく体験することができたのではなかろうか。そして、高知県の各地域にある遺跡の紹介や本物の遺物に触れる展示見学で、学習の事前事後では子どもたちの目の輝き、態度が違っていたように思われた。



写真16 火起こし

また、身近にある遺跡の学習を通して、自分たちが生活している地域を再認識する機会になったことであろう。そして、日本人が長い年月をかけて築いてきた生活や文化を知るとともに、暮しのなかで創意と工夫を重ねてきた人々の生きる力を学ぶことができたのではないかと考えている。また、この出前授業から知識偏重の学校の授業とは違い、発見や驚き共感から歴史の好きな子ども、何かに意欲を持つ子どもが育つように願っている。



写真17 勾玉づくり

④ 今後の課題と目標

i 実施までの計画と実施

前期で申込みがあった62校については、今までの実施年度のデータから、高知県の広域範囲と未実施校、地教委の推薦順などを考慮して選定した。4月からは、出前考古学教室打合せの文書(打合せ日、実施日時、学習内容等)を各学校へ送り、電話で実施時間や授業・体験学習の内容等について打合せを行なった。以前は学校に出向き先生方と打合わせをしていたが、電話でも問題がなく実施できる

表16 平成21年度出前考古学教室後期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒数		担当職員	ボランティア
				学年	人数	学年	人数		
1	10/9	いの町	長沢小	5,6年	10	3~6年	19	2	
2	10/16	高知市	高知若草養護学校	中学年	7	中学年	7	2	
3	10/23	高知市	御畳瀬小	6年	4	4~6年	15	2	
4	10/25	香美市	香長小	4年	14	4年	14	2	2
5	10/30	香美市	大栃小	6年	7	4~6年	37	2	
6	11/5	高知市	新堀小	6年	42	6年	42	2	3
7	11/10	南国市	日章小	4年	42	4年	42	2	3
8	11/12	土佐清水市	中浜小	5,6年	10	4~6年	10	2	
9	11/13	土佐清水市	清水小	6年	67	6年	67	2	
10	11/14	南国市	大篠小	3年	31	3年	31	2	
11	11/26	土佐清水市	三崎小	6年	13	6年	13	2	
12	11/27	土佐清水市	下川口小	5,6年	18	5,6年	18	2	
13	12/4	高知市	浦戸小	4~6年	31	4~6年	31	2	2
14	12/8	南国市	三和小	4~6年	73	4~6年	73	3	1
15	12/9	土佐市	新居小	6年	10	6年	10	2	
16	12/11	高知市	高知北高校	1~3年	10	1~3年	10	2	2
17	12/17	馬路村	馬路中	1年	11	1年	11	2	
18	2/12	土佐市	波介小	6年	16	6年	16	2	2
合計					416		466	37	15

## 2. 指定管理事業

ためこの方法で行なっている。決定したことはFAXで送付し、確認してもらい、質問等は電話で対応した。後期の募集は7月末を締め切り日としたが、定数に達しなかった。それは、新型インフルエンザの影響があった事と、前期の未採用校に対し募集期間が過ぎるまで後期の申込みの可否を問い合わせることはせず、申込み日を延期したためと考えている。来年度は、学校行事に支障をきたさないことを確認しながら、対応する必要があると思う。

毎年、新たに申込み学校もあり、出前考古学教室の輪が次第に広がって来ていることは、喜ばしいことである。平成16年度からの参加校を調べてみると、今年度の初実施校は、東部4校・中部7校・西部5校・特別支援2校・高校1校である。

限られた職員で実施しなければならないので、日程を遂行することに追われ、児童・生徒への細かい配慮が行き届かなかったと感じることもあった。当日の出前教室の内容をいかに充実させるかが大切であるので、訪問した各学校の先生方に協力をお願いした。協力を惜しまず一緒に取り組んでもらえる学校や、事前に配慮が必要な子ども達への対応を説明してくれる学校もあり、無事に終了することができた。

### ii 児童・教員へのアンケート集計

平成21年度はデータを比較分析、検討しやすい形式のアンケートに変更した。児童・生徒用[返信数43校, 1,039人]では、楽しかった96.7(96.1, 97.6)%〔年間(前期, 後期)%〕以下同じ, 楽しくなかった1.6(1.9, 1.2)%となっている。もう一度勉強してみたい98.0(98.6, 96.7)%, したくない1.6(1.0, 2.9)%である。この結果から多くの子ども達は、出前考古学教室に大変関心を寄せていることが分かる。「よかったと思うもの」[複数回答]は勾玉づくりが88.9(90.1, 84.6)%, 火起こしが79.0(76.7, 82.9)%で前期と後期の率に変化が見られた。授業は、33.6(32.7, 35.7)%で、だいたい同じ推移である。

教員用では、返信数83人を対象に、良かった98.8(98.0, 100)%, 良くなかった0.0(0.0, 0.0)%, 今後も希望する92.8(94.1, 90.6)%, 希望しない0.0(0.0, 0.0)%となっている。学校の教員側から見たこの率は、満足してよいと思われる。内容では、授業が88.7(82.8, 95.8)%と高く、授業の重要性を再認識してくれている。

アンケート結果を踏まえ、次年度の授業の内容や体験活動を実施するうえで、担当職員数や時間的な制約があるのは否めないが、児童や教員の希望に応じていく出前考古学教室にしていくよう努めなければならないと思う。

### iii 道具類の点検と改良

前期にマイギリの火きり棒を30個揃えた。火起こし道具は、使用回数に限度があり消耗が激しいので、日頃使用する度に点検と補充をしている。子どもたちからの要望に対応して、数種類の火起こし器を持参しているが、市販のユミギリの火起こしは難しく、弓棒の引き方だけでなく弓紐の種類や火起こし棒を改良する必要がある。また、縄文時代からの火起こし方法であるキリモミに移行するため、火きり棒を増やして



写真18 遺物展示

いく予定である。

前述のように現状ではマイガリの火起こし器を使用し、より着火し易い道具に改良している。本年度も新たに改良型のマイガリを購入し、できるだけ多くの児童に着火の感動を与えることができるように努めている。今後は、本来の火起こし方法に移行できるように試みたい。

#### iv 担当職員

子どもたちとの出会いを大切にするため、できる限り準備に時間を費やした。小・中・高校の生徒たちの実情や興味関心の持てそうな内容を考慮しながら、資料や準備物等を用意して授業や体験学習に臨んだ。2名の担当職員で対応できない場合は、他の班から応援を得て行なった。職員同士の連絡調整も短時間で済ませることができ、当日には支障がなく実施できた。

#### v 結び

出前考古学教室は12年目を迎えた。平成21年度も高知県の東から西へと学校に向き開催することができた。参加生徒数も延べ2万人を超え、この事業に対する期待は年々大きなものになっていると思う。多くの学校に出かける機会が増えることは、埋蔵文化財の普及啓発を進めるうえで大変喜ばしいことである。職員やボランティアが、児童・生徒たちと触れ合いながら授業や体験活動を行なうことは、普段の学校内活動では得られない達成感や満足感を感じさせることができる。また、勾玉づくりなどは、子どもたちが感性を働かせながら、ものをつくりだす喜びを味わうことで、情操教育にも通じる。

歴史を学ぶ意味は、代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べることから始まる。出前考古学教室は、その出発点として大いに活用できるのではないかと思う。児童・生徒たちが社会科を学んでいくうえで大切な役割を担っているわけである。今後、子どもたちには、高知県の文化財を保護し継承発展させてもらいたいという願いを込め、理解と関心に重きを置くだけでなく、より親しみを感じてもらえる出前考古学教室にしていきたいと考えている。

### (5) 研修事業

例年実施している職員専門研修を9月と11月に開催した。9月の研修は旧石器時代を中心とした石器について、株式会社アルカ考古学研究所代表取締役角張淳一氏、11月の研修は年代年輪学について元奈良文化財研究所年代学研究室長光谷拓実氏に講演していただいた。また、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所主催の研修に職員を派遣し、専門知識の習得を図った。

表17 平成21年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師	所属
1	旧石器時代を中心とした石器について	平成21年9月14・15日	角張淳一	(株)アルカ
2	年代年輪学	平成21年11月19・20日	光谷拓実	元奈良文化財研究所

表18 平成21年度独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者研修課程

No.	参加研修名	期間	氏名
1	文化財写真Ⅱ(応用)過程	平成21年7月23日～8月6日	久家隆芳
2	地質環境過程	平成22年2月16日～2月24日	下村 裕

2. 指定管理事業

表19 平成21年度情報交換会

No.	研修内容	開催日	担当
1	徳王子前島遺跡出土木製品について	平成21年6月1日	島内洋二
2	上ノ村遺跡石積み堤防遺構・石積み護岸遺構	〃	池澤俊幸
3	職場の労働安全衛生について	平成21年8月10日	高知労働局労災防止指導員 田内孝也

表20 平成21年度現地説明会一覧

No.	年月日	場所	遺跡名	参加人数	備考
1	平成21年8月2日	南国市小籠・東崎	土島田遺跡	約300人	
2	平成21年8月29日	土佐市新居字上ノ村	上ノ村遺跡	75人	
3	平成21年9月12日	吾川郡いの町天神東	天神溝田遺跡	約150人	
4	平成22年2月6日	南国市大埴乙関	関遺跡	26人	
合計				約551人	

(6) 講師等職員の派遣

県内外の文化施設及び団体や大学と教育委員会などから講師依頼があり、埋蔵文化財の広報普及の観点から可能な限り応じた。平成21年度は13カ所から依頼があり、8名の職員を派遣した。

また、会議等への派遣は表22のとおりである。

註

- (1) 歴史学習を始めた小学6年生を中心に授業を行い、一部には郡部などの複式学級の児童に行った場合もある。



写真19 現地説明会(上ノ村遺跡)



写真20 職員専門研修1



写真21 職員専門研修2

- (2) 授業を行った小学6年生が中心であるが、それ以外の学年の児童が参加することも多い。
- (3) 郡部の学校では2校合同で行ったのが5回ある。

### 3. その他の事業

高知県文化財団の一施設として「休・廃校活性化プロジェクトin布2009」に参加し、11月2日(月)・3日(火)に土佐清水市立布小学校で、ガラス玉づくりを行った。



写真22 休・廃校活性化プロジェクトin布 2009

表21 平成21年度講師等派遣依頼一覧

No.	日時・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
1	4月27日 5月11日	前田光雄 筒井三菜	南国市立三和小学校	縄文土器の作成・野焼き, 古代米炊飯の指導	
2	5月11日～ 3月31日	池澤俊幸	土佐清水市教育委員会	加久見城館遺跡群の 発掘調査報告書作成の指導・助言	
3	7月8日	出原恵三	南国市立香南中学校	講師依頼 高知海軍航空隊関連遺跡見学	
4	7月9日	出原恵三	特定非営利活動法人 高知NPO	講師依頼 「浦戸湾周辺の歴史」	
5	8月10日	筒井三菜 久家隆芳 中石忍	くじら学童クラブ・ めだか学童クラブ	体験学習(火起こし・勾玉作り)	
6	8月22日	久家隆芳	社団法人徳島市 シルバー人材センター	講師依頼 「絵画からみた高知の弥生文化」	
7	8月30日	出原恵三	高知市教育委員会	講師依頼 「西分増井遺跡群」	
8	10月1日～ 3月31日	廣田佳久	高知女子大学	高知女子大学非常勤講師 (考古学・博物館学)	木・金曜日の5限目
9	11月2・3日	前田光雄 久家隆芳	高知県立美術館	事業協力(ガラス玉作り)	
10	12月22日	舛田龍也 中石忍	下司病院	勾玉作り体験	
11	1月22日	吉成承三	高知城友の会	講師依頼 「高知城三ノ丸石垣工事を 終えるにあたって」	
12	1月26日	舛田龍也 中石忍	下司病院	講義, 遺物展示・解説, 火起こし体験	
13	2月14日	前田光雄	徳島県埋蔵文化財センター	講師依頼 「松ノ木遺跡」	

3. その他の事業

表22 平成21年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	第1回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成21年4月14・15日	廣田佳久・中石忍
2	平成21年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会 (札幌市)	平成21年6月10～12日	森田尚宏・廣田佳久
3	平成21年度全埋協コンピュータ等研究委員会 全国委員会(名古屋市)	平成21年7月16・17日	廣田佳久・中石忍
4	平成21年度全埋協コンピュータ等研究委員会 中国・四国・九州ブロック会議(松山市)	平成21年9月3・4日	廣田佳久・筒井三菜
5	徳島考古資料館講師	平成21年8月22日	久家隆芳
6	遺跡資料リポジトプロジェクト連絡調整会議	平成21年9月11日	廣田佳久
7	第1回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成21年9月30日	廣田佳久
8	平成21年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(松山市)	平成21年10月29・30日	森田尚宏・出原恵三
9	遺跡資料リポジトプロジェクトでの事例発表	平成21年11月27・28日	廣田佳久
10	第1回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成22年1月6日	廣田佳久
11	第1回「続・発掘へんろ」調査成果報告会講師	平成22年2月14日	前田光雄
12	第1回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成22年3月10日	廣田佳久・中石忍

## IV 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 東野<sup>ひがしのどい</sup>土居遺跡(09-1KH)

所在地 香南市野市町東野

立地 台地

時代 中世・近世

調査期間 平成21年5月27日～8月4日

調査面積 3,510㎡

担当者 出原恵三・藤野明弘・下村裕

調査内容 東野土居遺跡は国土交通省が計画している南国安芸道路建設工事に伴い平成21年度に初めて本発掘調査が実施された遺跡で、香宗川右岸に広がる古期扇状地である野市台地上に立

地している。遺跡の範囲は東西約1,150m、南北約380mと広く、本年度調査箇所は東野土居遺跡の西端部の野市町東野字北馬袋で、南国バイパスの北に接する。

調査では調査区を斜め方向にほぼ真直ぐ走る検出長約70m、幅約0.8m、深さ約60cmの溝跡や調査区の北東部で近世を中心とした多くの柱穴や溝跡を確認した。柱穴の多くは掘立柱建物を構成するもので、3軒の掘立柱建物跡を復元できた。柱穴は径60～70cm、深さ50～60cmとしっ

かりしたものが多く、大部分の柱穴には扁平な川原石が礎板として使われており、中には礎板の下に栗石を詰めた柱穴も見られた。遺物量は僅かであったが、区画溝とみられる溝跡から18世紀と考えられる陶磁器が出土しており、本調査区には近世村落が展開していたものとみられる。このように本年度の調査箇所では18世紀を中心とした遺構群が検出された。遺構の分布には粗密があり、調査区を南北に走る区画溝を境に東側で3棟の掘立柱建物跡などが確認されたが、西側では柱穴等の遺構は検出されなかった。このことは居住域が明確に区分けされていたことを示しており、集落の周囲に畑などが広がる当時の村落形態が推測される。

東野土居遺跡における発掘調査は今回が初めてであり、今後予定されている発掘調査の成果を合わせて東野土居遺跡の全体像が明らかになっていくものと考えられる。

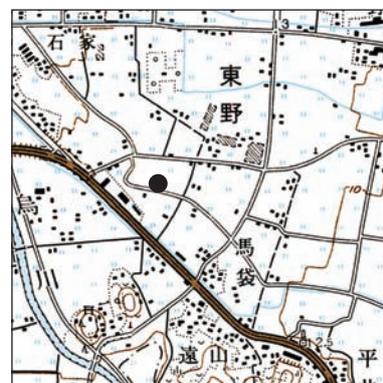


写真23 溝完掘状態



写真24 遺構完掘状態

## 2. 関遺跡(09-2NS)

所在地 南国市大埴乙字関

立地 沖積平野

時代 弥生時代・中世・近世

調査期間 平成21年8月11日～平成22年2月19日

調査面積 8,550㎡

担当者 安岡猛・藤野明弘・島内洋二・下村裕

調査内容 関遺跡は国土交通省が計画している高知南国道路建設工事に伴い平成20・21年度の2カ年にわたって調査を行った遺跡で、物部川右岸に広がる沖積平野(沖積扇状地・自然堤防)に立地しており、弥生時代の大規模な集落が存在していた田村遺跡群の北西約500mに位置する。下田川を挟んだ西側には弥生時代中期末から後期初めの集落や古代の官衙関連遺構と中世の集落が確認された西野々遺跡が広がる。

本年度の調査で確認された遺構は弥生時代から近世にかけての土坑、溝跡、柱穴、自然流路などで、調査対象地中央部では近世を中心とした遺構が数多く検出された。この調査区は宅地であったため削平の影響が看取された

が、弥生時代後期とみられる溝跡(検出長約3.5m、幅約0.4m、深さ約10cm)が確認され、周囲では当該期の柱穴も検出されていることからこの溝跡は集落内に設置された排水用の溝とみられ、当該期の集落が存在していた可能性も考えられる。

また、調査対象地東部の調査区では弥生時代中期と考えられる溝跡が5条検出された。しかし、中央部の調査区とは異なり柱穴など集落に伴う遺構が確認されていないことからこれらの溝跡は水田耕作に伴う用排水路として機能していたものと考えられる。

このように関遺跡では調査対象地中央部を中心に弥生時代や近世の集落が展開し、周辺には水田が存在する現在と変わらない風景が広がっていたとみられる。

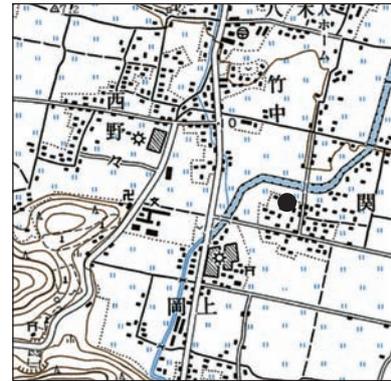


写真25 弥生土器出土状態



写真26 溝完掘状態

### 3. 天神<sup>てんじんみぞた</sup>溝田遺跡(09-4ITM)

所在地 吾川郡いの町天神東他

立地 丘陵谷部

時代 古代～近世

調査期間 平成21年4月25日～9月30日

調査面積 4,400㎡

担当者 吉成承三・坂本幸繁

調査内容 天神溝田遺跡は宇治川左岸に立地し、周辺にはバーガ森北斜面遺跡や音竹城跡が存在する。今年度の発掘調査は高知西バイパス道路建設に伴って昨年度に引き続き実施したもので昨年度の調査区に隣接する。



I区の上層では、近世の屋敷跡の一部を検出した。これらは昨年度調査で明らかとなった屋敷跡に関連するものとみられ、屋敷の北限を区画する溝跡、掘立柱建物跡、土坑などが検出された。北限の溝跡からは瀬戸産の向付皿が出土した。この向付皿はこれまで高知城と周辺城下町でしか出土例がなく、近世初期(江戸時代前期)の集落構造を知る上で貴重な成果を得ることができた。また、調査区北西部の下層からは、甕、壺、甌などの大量の弥生時代後期後半の土器が集中して出土した。



写真27 備前焼の壺と和鏡出土状態

II区では古代・中世の遺構と遺物が検出された。中世の検出面からは土師質土器、瓦質土器、須恵器(東播系)、常滑焼、備前焼、青磁(劃花文)、筭などの中世の遺物が出土しており、遺構では屋敷を区画する断面V字形を呈した溝跡が確認された。遺構・遺物は、14～15世紀にかけてのものが中心となる。

今回の調査で特筆すべき内容は、埋納遺構から和鏡が出土したことである。和鏡は完存する備前焼の壺の口縁部直下で鏡面を上にし、蓋をしたように置かれた状態で出土し、鏡背には州浜・松樹・双雀の文様を配し、松樹の一部に巢籠りが施されている。和鏡は完存し、かつ遺存状態が良く、鈕座には紐が残っていた。さらに、備前焼の壺の中には、土師質土器杯が20個体、銅銭393枚が納められていた。土師質土器には、ゴマやタールが付着したものも認められる。銭種は中国の北宋から明の時代にかけて鑄造されたものであり、全て渡来銭である。時期的には、容器として使用された備前焼壺、中から出土した土師質土器の形態などから15世紀前半頃が考えられ、土師質土器杯や和鏡の出土状況などを加味すれば単なる埋納銭とは考えがたく、地鎮や、まじないなど宗教的な使用方法も考えられ、当時の儀礼風習を知る上で貴重な成果となった。



写真28 遺構完掘状態

#### 4. <sup>ししまだ</sup>士島田遺跡(09-5NS)

所在地 南国市小籠・東崎

立地 台地

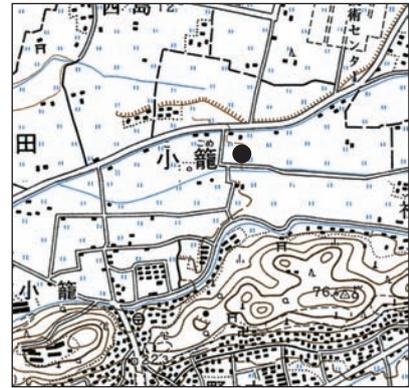
時代 弥生時代～近世

調査期間 平成21年4月18日～平成22年3月20日

調査面積 4,300㎡

担当者 山本哲也・前田光雄・近藤孝文

調査内容 士島田遺跡の調査は高知県が計画した国道195号道路改築工事に伴う発掘調査で、調査区が広いこと、遺構・遺物が密集していることなどが重なり、調査は平成19～21年度の3年間実施した。



本遺跡は長岡台地の南西部に位置し、標高約15mに立地し、北部には国分川水系の扇状地が広がり、古代の土佐国衙跡や土佐国分寺跡、比江廃寺跡などが所在する。

南部には年越山があり、すぐ南には平安時代前半に建立された野中廃寺跡があり、北の麓には祈年神社があり、『続日本紀』慶雲3年(706)にある祈年幣帛を受けた神社に比定されている。

このように士島田遺跡の周辺には多くの遺跡がみられ、土佐における古代の中心的な場所であったと考えられる。

本年度の発掘調査では、弥生時代後期後半の竪穴住居跡7軒・小竪穴4基、古墳時代の竪穴住居跡21軒(カマド付12軒)・小竪穴14基、古代の掘立柱建物跡9棟、小竪穴状遺構1基、地下式坑2基、中世の性格不明遺構2基、近世の性格不明遺構1基及び多数の溝跡を検出した。この他時期不明の柱穴を多数検出した。調査面積は4,300㎡で遺構からは多量の遺物が出土した。

弥生時代では、長径が8mを超える六角形の大型竪穴住居跡3軒を検出した。このうち2軒は焼失したものと考えられ、住居内の中央部を焼土に覆われたものと、全体が焼土に覆われた3ヵ所にベッドをもつ特殊なものを確認した。いずれの住居からも炭化材が出土している。小竪穴2基からは、壺などの一括資料が多量に出土した。

壺棺墓は2基検出し、昨年度出土した19基の壺棺墓を合わせると合計21基となり、県内最多の出土数になる。これらの壺棺は弥生時代後期後半のもので、乳児・幼児の埋葬に供せられたものと考えられる。また、弥生時代中期末から後期前半のものと考えられる石斧と携帯用砥石が近接して出土した。

古墳時代では、初頭のものと考えられる隅丸方形で掘方が深い竪穴住居跡8軒、また後期のものと考えられる方形で掘方が浅い竪穴住居跡13軒、このうちの12



写真29 竪穴住居跡群完掘状態

軒で造り付けのカマドを検出した。昨年度のカマド付住居跡を含めると土島田遺跡全体で合計31軒となり、県内最多の検出数となる。カマド付住居跡はいくつかの切り合い関係がみられ、北方向にカマドをもつものが最も古く、それを壊して西方向に付くものが造られていた。さらに、北方向に付くもの同士でも切り合い関係があり、カマド付の住居だけでも最低3時期の変遷が考えられる。住居内の遺物は少ないものの、須恵器が出土している。この他、性格不明の小竪穴群(13基)を検出した。遺物は、須恵器の長頸壺・短頸壺・高台付椀・小壺・杯が出土した。



写真30 大型竪穴住居跡

古代では、掘立柱建物跡、小竪穴状遺構、土坑等を検出した。掘立柱建物跡は、2間×3間のものを6棟、2間×2間のものを1棟検出した。小竪穴状遺構は、一辺が約1.9m、深さ約0.7mのもので、階段状の付帯施設があった。底面の4隅には浅い小ピットが伴い、土師器杯・甕、鉄製紡錘車が出土した。この遺構の上層には大礫が30個ほど投棄されており、内1点は緑泥片岩で板碑状の礫が出土した。土坑のうち10世紀代と考えられる一辺約1.5m、深さ約0.7mを測る方形の1基は、天井部をもつ地下式坑ではないかと考えられる。



写真31 古墳時代遺物出土状態

近世では、溝跡等を検出した。昨年度の調査で大きな屋敷があったことも判明しており、より詳細な検証を進めていきたいと考えている。

本遺跡には弥生時代後半から江戸時代までの集落跡や遺物が数多く残されていた。特筆すべきは、古墳時代の多数のカマド付竪穴住居跡、弥生時代後期の大型竪穴住居跡や壺棺墓、また昨年度検出した古代の官道とも考えられる道路状遺構などがある。こうした事柄はこの地に生きた人々が営々と築きあげてきた、豊かな文化があったことを物語るものであり、今後の調査を通じてこれらを明らかにできればと考えている。

## 5. 上ノ村遺跡(09-8TK)

所在地 土佐市新居字上ノ村

立地 沖積平野等

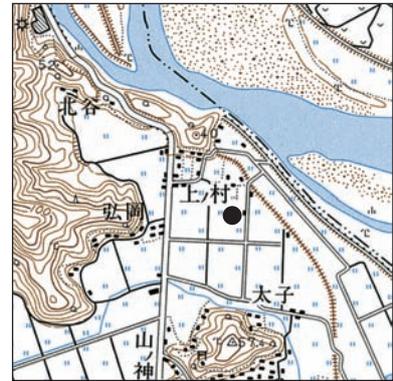
時代 縄文時代晩期～近代

調査期間 平成21年4月1日～9月30日

調査面積 9,850㎡

担当者 池澤俊幸・山田耕造・鍵山真一・坂本憲昭

調査内容 本遺跡は波介川河口導流事業に伴う6年間の調査により縄文晩期から近代に及ぶ複合遺跡であることが判明した。特に古代後期から中世では様々な搬入品が多数出土し、立地と併せて流通の拠点であったと考えられる。



本年度は、昨年検出した石積みの近代堤防遺構と近世護岸遺構、および旧県道西側地点の調査を行った。堤防遺構と護岸遺構では内部の構造解明や出土遺物による年代の推定が課題となった。

石積み堤防遺構(2次石堤)では、内部から先行する堤防遺構の基底部分が検出された。これを「1次石堤」とする。1次石堤は下部の石積みが残るのみであったが、2次石堤とは石材の加工や積み方に違いがみられた。また、石積みが始まる上流側の端では木組みの基礎が検出された。凹地に「木枠」を設置し、そこに堤体内と同じ大きさの川原石を充填している。基礎の深さは2.0m、全幅15.2m、その上の堤防本体は最大幅10.4mを測る。このような「木枠」を、堤の裾に設置する水制装置ではなく内部の基礎構造として使用した例はこれまで知られていない。なお、木枠はホゾで結合されており釘



写真32 近世護岸遺構完掘状態

は使用されていない。遺物は、2次石堤の内部より明治から昭和初期の磁器片が出土しており、使用石材にみられるハツリ加工や「落とし積み」の年代観とも齟齬はない。しかし、1次石堤や基礎部分の構築時期については今後の課題である。



写真33 近代堤防遺構一次石堤完掘状態

石積み護岸遺構  
は石積み堤防遺構

の下で検出されたもので、自然石を「野面積み」しており残存高は最大4.3mを測る。昨年度の調査で検出された「平地」や「猿尾」状の付属施設は各々長さ40m以上を測り、同様の事例はこれまでほとんど知られていない。その規模や構造から単なる水制装置として説明できない面があり、機能が問題である。護岸遺構の内部まで調査した結果、護岸本体部分の裏グリはごく薄い部分が多く、石材も「貼り石」的な積み方となり、基底にも胴木等は見られなかった。遺物は裏グリから近世前期とみられる陶器等が出土した。当遺構の築造時期を示しているとみられ、野中兼山らが活躍した藩政前期の大開発時代に当たる可能性がある。また、当遺構が河川の砂礫で埋没する18世紀代は、それまで当地を經由したと思われる仁淀川から高知城下方面への水運の主ルートが変更されていく時期に当たる。

その他、中世集落跡の西側背後にあって湿地状を呈する地点の調査を行った結果、2条の直線的な石列を検出した。畦畔または道路に関わる可能性があり、2条は軸線等からみて時期差を持つとみられる。中世に属するとみられ、集落跡付近から新居城跡がある尾根の鞍部方向に延びる。道路に関連するものであれば、地域の政経拠点がある高岡地区方面に向かっている。当調査区では近世の漆器や錠前も出土しており、該期の状況を示している。



写真34 石列完掘状態

## 6. <sup>にしひろこうじ</sup>西弘小路遺跡(09-7NK)

所在地 高知市丸ノ内

立地 三角州

時代 古代～近世, 近代

調査期間 平成21年10月19日～平成22年1月8日

調査面積 1,480㎡

担当者 池澤俊幸・鍵山真一

調査内容 高知城跡南西の内濠直外地点で高知法務総合庁舎新営事業に伴う調査を行った結果、溝跡、井戸跡群、土坑群、埋桶等の遺構と木製品、土器、陶磁器、金属器等の遺物が出土した。遺物

に関して、今次調査では木簡、漆器、下駄等の木製品が多量に出土していることが注目される。漆器碗は形態、塗装、紋様が各種存在する。下駄は形式、形状、寸法が多様である。その他、刃物や刀剣の鞘、櫛、羽子板、箸、鋤等が出土した。陶磁器も多量で、志野焼、織部焼、唐津焼の皿・碗・向付・甕、丹波焼、天目茶碗もみられた。これらは各々数点を数えるとみられ、これまでの高知城下町における調査では最多級である。

検出した大溝跡SD3は残存幅3.3m、深さ1.1mを測る。調査区内に南端があり、埋土も滞水的な状況で、小規模な堀ともいえる。上記の陶器や木簡、木製品等が出土した。北側は調査区外へ延びる。出土遺物の時期は17世紀後半から18世紀前半に比定できる可能性がある。その他の遺構や包含層からは近世後期の遺物も出土している。

寛文9年等の高知城周辺図や史料によれば、当地には近世前期においては上級家臣の屋敷が配されている。しかし、元禄や享保に大火があり、その後は「西弘小路」や「御厩」が設けられたようであるが、具体的な内容や変遷は不鮮明であった。SD3が古絵図にみる区画線と合致する可能性や、検出した土坑群出土の遺物に被熱したものがあることについて今後検証する必要がある。

また、下層の流路跡や包含層から瓦器碗、青磁碗、古瀬戸、須恵器が出土しており、史料が僅少な山内藩政期以前の考古資料も得ることができた。

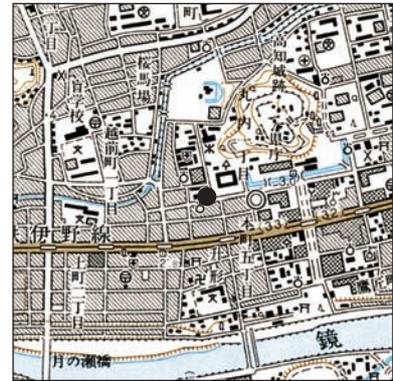


写真35 木簡出土状態



写真36 遺構完掘状態

## 7. 原遺跡(09-9KH)

所在地 香美市土佐山田町山田1361

立地 台地下位面(古期扇状地面)

時代 弥生時代～中世

調査期間 平成21年5月18日～7月17日

調査面積 710㎡

担当者 松本安紀彦・安岡猛

調査内容 原遺跡は長岡台地より一段低い台地下位面(古期扇状地面)に立地する弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、県立山田養護学校の敷地を中心に広がる。



遺跡は、昭和55年10月高等部校舎建設中に遺物が発見され、現地調査で遺物包含層が遺存していたことによりその存在が確認され、引き続き緊急発掘調査が実施された。昭和56年度は体育館の改築、昭和57年度にはプール建設に伴って発掘調査が行われ、弥生時代中期末から後期初頭の竪穴住居跡、溝跡を始めとして、古墳時代後期の土坑、ピットなどの遺構が検出されると共に弥生時代から中世にかけての遺物が出土し、当該期の集落跡であることが明らかになった。

今回の調査は、平成19年度に実施した寄宿舎建替に伴う発掘調査の続きで、昭和55～57年度に発掘調査が実施された場所より北東約50mに位置し、平成19年度の調査区の南側に当たる。調査の結果、古代から中世にかけての遺構・遺物を中心に弥生時代と古墳時代の遺物も比較的多く確認され、以前に実施された調査結果と同様な傾向が窺えた。



写真37 須恵器出土状態

一方、平成19年度の調査で検出された遺構・遺物は少なく、かつ柱穴列を境として北側には「黒ボク」と称される黒色の火山灰土壌が厚く堆積しており、建物等の構築に適する砂礫層までは1m以上あった。これらのことから集落の広がりには平成19年度に検出した柱穴列までみられ、この柱穴列は柵等の土地区画の機能を有する施設の痕跡であったものと考えられる。

平成19・21年度の調査によって、以前確認された竪穴住居跡は検出されなかったものの、原遺跡の広がりを知る上で重要な手がかりを得ることができた。



写真38 遺構完掘状態

## 8. 徳王子前島遺跡(09-10KM)

所在地 香南市香我美町徳王子前島

立地 低湿地, 丘陵

時代 古代末~中世

調査期間 平成21年4月20日~7月17日

調査面積 1,700㎡

担当者 島内洋二・井上昌紀

調査内容 徳王子前島遺跡は、香我美町徳王子に所在する弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、香宗川左岸に広がる低湿地と丘陵部先端に立地する。発掘調査は、国土交通省が計画している南国芸道路の建設に伴い実施したもので、古代末から中世の自然流路を検出した。

確認した自然流路は検出長約40m, 幅3.0~6.5m, 深度は0.7~0.9mを測り、南流し、南端部が溜まり状に広がっており、土師質土器や瓦, 木製品などが出土した。その中に直径約5cmの球形を呈する木製品が出土しており、毬杖と呼ばれる木製の槌をつけた杖を振るい、毬を相手陣に打ち込む遊戯の毬と考えられる。そのほか、同じ自然流路から古代末頃と考えられる軒丸瓦が出土した。県内では、類例のない瓦当文を持ったものである。

また、江戸時代の遺物包含層からは柿経が出土した。柿経とは、細く削った板材に経文を写したもので、主に供養のために寺院や経塚に納める。当遺跡出土の柿経は、頂部を山形に刻んだ短冊形である。表裏ともに墨跡が残存しており、表面には梵字と「南」の文字が判読できる。法華経の一文を書いたものとみられる。

住居跡などの遺構は確認できなかったものの、自然流路からは多くの瓦片が出土しており、付近に寺院等の瓦葺きの建物があったことを示唆しており、周辺遺跡の様相を知る上で重要な発見となった。

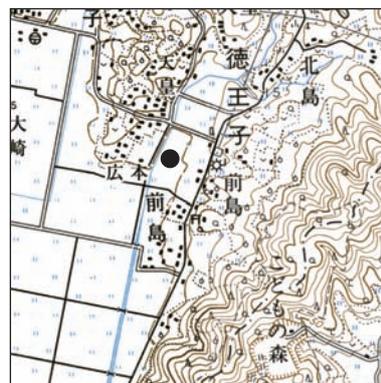


写真39 軒丸瓦出土状態



写真40 自然流路完掘状態

## V 条例・規則等

### 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

**第1条** 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

**第2条** センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

**第3条** センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

**第4条** センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

**第5条** センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

## 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

### (遵守事項)

**第6条** 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

### (損害賠償義務)

**第7条** 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

### (指定管理者が行う業務)

**第8条** 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

### (指定管理者の指定の申請)

**第9条** 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

### (指定管理者の指定等)

**第10条** 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

### (事業報告書の作成及び提出)

**第11条** 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

**第12条** 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

**第13条** 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

**第14条** 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

**第15条** 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

**第16条** 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

**第17条** この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

## 2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

**第2条** 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

**第3条** 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

**第4条** この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令20高文財第891号

財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年7月19日条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成21年3月31日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

本書作成データ

ハード：Mac Pro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon , PowerMacG5/Dual 2.0GHz ,  
PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOS X (10.6.3)

ソフト：JeditX2.1.5, Microsoft Excel Mac2008, ProofReader2.1.0, Adobe Photoshop® 10.0.1, Adobe  
Illustrator® 13.0.3, Adobe Indesign® 5.0.4J

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italic

プリンタ：DocuPrint C3540(文書校正)

データ：Macintosh Full DTPで入稿

高知県埋蔵文化財センター年報

第19号

2009年度

発行日 平成22年7月9日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉 1437 - 1

TEL. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

